

3.2 現状分析

ここでは、狛江市の国民健康保険被保険者の健康・医療情報を分析します。

3.2.1 基礎統計

令和4年4月から令和5年3月診療分(12カ月分)の入院、入院外、調剤レセプトを対象として医療費統計を分析しました。12カ月平均の被保険者数は16,132人、レセプト件数は月間平均19,263件、患者数は月間平均7,591人です。また、患者一人当たりの月間平均医療費は54,680円でした(図表55)。年齢別医療費特性を図表56に示します。医療費が20歳~24歳を境に増加を始め、65歳~69歳以上で急増している様子が見て取れます。年齢階層別医療費を男女別にみると、両者における医療費に顕著な差がないことがわかります(図表56)。

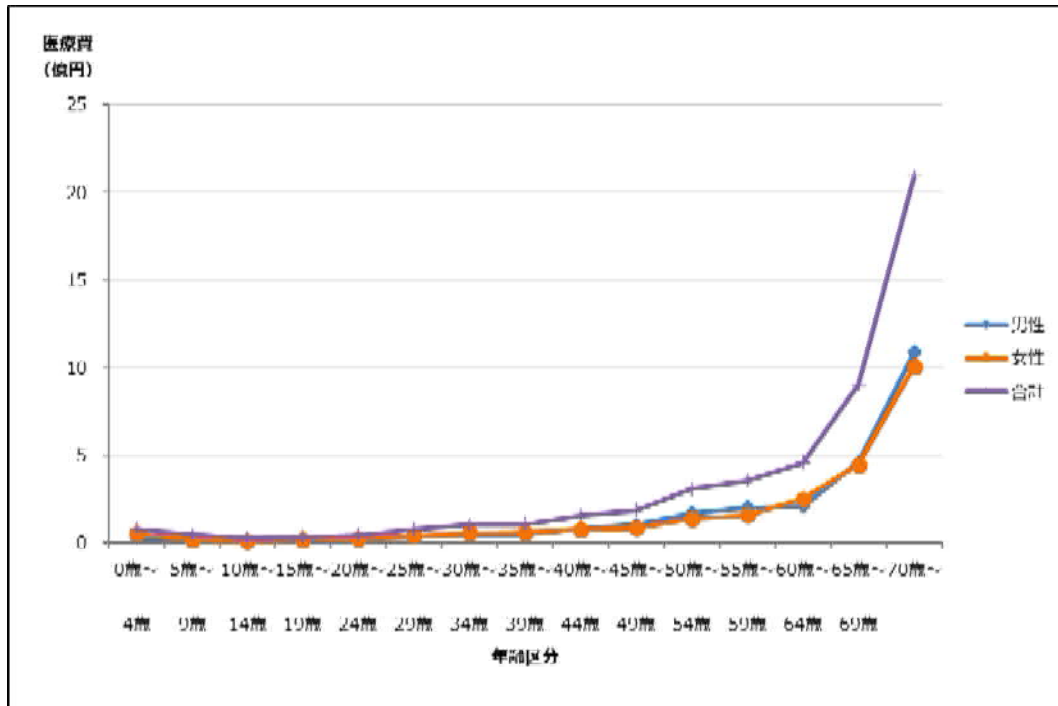
図表 55: 基礎統計³⁰

		令和04年4月	令和04年5月	令和04年6月	令和04年7月	令和04年8月	令和04年9月	令和04年10月	
A	被保険者数(人)	16,468	16,320	16,300	16,293	16,232	16,231	16,191	
B	レセプト件数(件)	入院外	11,329	10,756	11,240	11,252	10,889	11,092	11,221
		入院	211	209	248	247	247	236	229
		調剤	8,236	7,731	8,049	8,156	7,980	8,021	8,065
		合計	19,776	18,696	19,537	19,655	19,116	19,349	19,515
C	医療費(円) ※	419,661,520	402,561,770	426,766,790	425,560,120	449,881,100	435,332,180	425,246,800	
D	患者数(人) ※	7,758	7,546	7,694	7,816	7,557	7,572	7,669	
C/D	患者一人当たりの平均医療費(円)	54,094	53,348	55,467	54,447	59,532	57,492	55,450	
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	25,483	24,667	26,182	26,119	27,716	26,821	26,264	
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	21,221	21,532	21,844	21,651	23,534	22,499	21,791	

		令和04年11月	令和04年12月	令和05年1月	令和05年2月	令和05年3月	12カ月平均	12カ月合計	
A	被保険者数(人)	16,020	15,901	15,873	15,827	15,932	16,132		
B	レセプト件数(件)	入院外	11,062	11,292	10,490	10,458	11,207	11,024	132,288
		入院	204	224	208	196	205	222	2,664
		調剤	7,896	8,258	7,658	7,702	8,448	8,017	96,200
		合計	19,162	19,774	18,356	18,356	19,860	19,263	231,152
C	医療費(円) ※	404,784,780	426,621,100	390,244,690	364,080,310	410,179,220	415,076,698	4,980,920,380	
D	患者数(人) ※	7,518	7,695	7,244	7,319	7,704	7,591	91,092	
C/D	患者一人当たりの平均医療費(円)	53,842	55,441	53,871	49,745	53,242	54,680		
C/A	被保険者一人当たりの平均医療費(円)	25,267	26,830	24,585	23,004	25,746	25,729		
C/B	レセプト一件当たりの平均医療費(円)	21,124	21,575	21,260	19,834	20,654	21,548		

³⁰ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月~令和5年3月診療分(12カ月分)。医療費・医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。患者数・医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトの人数を集計。同診療年月で一人の方に複数のレセプトが発行された場合は、一人として集計。

図表 56: 年齢階層別医療費³¹



3.2.2 高額レセプトの件数及び要因

発生しているレセプトのうち、診療点数が5万点以上のものを高額レセプトとし、以下の通り集計しました(図表 57)。12 カ月平均の高額レセプトは、月間平均 133 件発生しており、レセプト件数全体の 0.7% を占めます。高額レセプトの医療費は月間平均 1 億 4,272 万円程度となり、医療費全体の 34.4% を占めます。

³¹ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月~令和5年3月診療分(12カ月分)。

図表 57: 高額(5万点以上)レセプトの件数及び割合³²

	令和04年4月	令和04年5月	令和04年6月	令和04年7月	令和04年8月	令和04年9月	令和04年10月
A レセプト件数全体 (件)	19,776	18,696	19,537	19,655	19,116	19,349	19,515
B 高額 (5万点以上) レセプト件数 (件)	136	130	139	149	159	135	122
B/A 件数構成比 (%)	0.7%	0.7%	0.7%	0.8%	0.8%	0.7%	0.6%
C 医療費全体 (円) ※	419,661,520	402,561,770	426,766,790	425,560,120	449,881,100	435,332,180	425,246,800
D 高額 (5万点以上) レセプトの医療費 (円)	136,131,120	138,078,590	149,331,340	150,833,290	179,607,020	151,429,440	145,501,820
D/C 金額構成比 (%)	32.4%	34.3%	35.0%	35.4%	39.9%	34.8%	34.2%

	令和04年11月	令和04年12月	令和05年1月	令和05年2月	令和05年3月	12カ月平均	12カ月合計
A レセプト件数全体 (件)	19,162	19,774	18,356	18,356	19,860	19,263	231,152
B 高額 (5万点以上) レセプト件数 (件)	127	129	131	114	124	133	1,595
B/A 件数構成比 (%)	0.7%	0.7%	0.7%	0.6%	0.6%	0.7%	
C 医療費全体 (円) ※	404,784,780	426,621,100	390,244,690	364,080,310	410,179,220	415,076,698	4,980,920,380
D 高額 (5万点以上) レセプトの医療費 (円)	131,965,990	141,742,450	131,957,690	118,563,330	137,539,650	142,723,478	1,712,681,730
D/C 金額構成比 (%)	32.6%	33.2%	33.8%	32.6%	33.5%	34.4%	

高額レセプトの年齢階層別医療費、年齢階層別患者数、年齢階層別レセプト件数を以下に示します。高額レセプトの医療費のうち66.2%、高額レセプト件数のうち63.7%を65歳以上で占めています(図表58、図表59)。

³² 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。医療費・医療機関もしくは保険薬局に受診されたレセプトに記載されている保険の請求点数を集計し、金額にするために10倍にして表示。

図表 58: 高額（5万点以上）レセプトの年齢階層別医療費³³

年齢階層	入院外(円)	入院(円)	入院外および入院(円)	構成比(%)
0歳～4歳	0	38,365,480	38,365,480	2.2%
5歳～9歳	0	13,261,020	13,261,020	0.8%
10歳～14歳	0	0	0	0.0%
15歳～19歳	0	6,784,200	6,784,200	0.4%
20歳～24歳	3,089,220	2,089,980	5,179,200	0.3%
25歳～29歳	0	14,396,130	14,396,130	0.8%
30歳～34歳	13,272,070	28,807,950	42,080,020	2.5%
35歳～39歳	5,845,490	14,353,810	20,199,300	1.2%
40歳～44歳	7,096,340	39,972,590	47,068,930	2.7%
45歳～49歳	13,622,720	48,918,710	62,541,430	3.7%
50歳～54歳	18,893,140	76,157,380	95,050,520	5.5%
55歳～59歳	17,884,270	90,539,240	108,423,510	6.3%
60歳～64歳	16,864,030	108,256,670	125,120,700	7.3%
65歳～69歳	64,676,400	245,499,830	310,176,230	18.1%
70歳～	208,724,510	615,310,550	824,035,060	48.1%
合計	369,968,190	1,342,713,540	1,712,681,730	

³³ 本計画策定受託業者による医療費分析等に基づいた統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。

図表 59: 高額（5万点以上）レセプトの年齢階層別レセプト件数³⁴

年齢階層	入院外(人)	入院(人)	入院外および入院(人)	構成比(%)
0歳～4歳	0	6	6	0.8%
5歳～9歳	0	6	6	0.8%
10歳～14歳	0	0	0	0.0%
15歳～19歳	0	1	1	0.1%
20歳～24歳	1	1	2	0.3%
25歳～29歳	0	13	13	1.8%
30歳～34歳	2	9	11	1.6%
35歳～39歳	3	11	13	1.8%
40歳～44歳	7	25	29	4.1%
45歳～49歳	4	19	22	3.1%
50歳～54歳	7	42	45	6.4%
55歳～59歳	7	39	43	6.1%
60歳～64歳	10	56	66	9.3%
65歳～69歳	21	125	138	19.5%
70歳～	63	281	313	44.2%
合計	125	634	708	

高額レセプトの要因となる疾病を以下の通り示します。医療費分解後、患者毎に最も医療費がかかっている疾病を特定し集計しました。患者一人当たりの医療費が高額な疾病の上位5位は、「妊娠及び胎児発育に関連する障害」、「貧血」、「ウイルス性肝炎」、「白血病」、「悪性リンパ腫」となっていますが、高額レセプトの要因となる疾病全体からみると、患者数は9.8%、医療費は20.8%にとどまっています。（図表 60 赤枠）一方で、「悪性新生物」、「心血管疾患」、「脳血管疾患」に関連する疾患は、患者数の69.1%、医療費の59.3%を占めています（図表 60 緑枠）。

³⁴ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。

図表 60: 高額（5万点以上）レセプト 高額レセプトの要因となる疾病³⁵

中分類名	主要傷病名	患者数 (人)	医療費 (円)			患者一人当たりの 医療費 (円)
			入院	入院外	合計	
妊娠及び胎児発育に関連する障害	早産児, 低出生体重児, 妊娠28週未満で出生した児	1	10,495,890	0	10,495,890	10,495,890
貧血	貧血, 鉄欠乏性貧血, 出血性貧血	8	20,866,780	32,617,750	53,484,530	6,685,566
ウイルス性肝炎	B型肝炎, C型肝炎, 急性ウイルス性肝炎	2	0	9,825,600	9,825,600	4,912,800
白血病	白血病, 骨髄性白血病, リンパ性白血病	9	21,042,340	14,152,680	35,195,020	3,910,558
悪性リンパ腫	悪性リンパ腫, リンパ腫, 脳悪性リンパ腫	11	19,734,530	9,494,360	29,228,890	2,657,172
その他の感染症及び寄生虫症	百日咳, 破傷風, マイコプラズマ感染症	8	10,050,390	10,659,960	20,710,350	2,588,794
動脈硬化 (症)	動脈硬化症, 動脈硬化性網膜症, 大動脈硬化症	5	11,892,650	0	11,892,650	2,378,530
脳内出血	脳出血, 高血圧性脳内出血, 脳室内出血	11	26,095,620	0	26,095,620	2,372,329
喘息	気管支喘息, 小児喘息, 喘息性気管支炎	2	4,601,330	0	4,601,330	2,300,665
その他の周産期に発生した病態	分娩麻痺, 新生児癲癇, 哺乳障害	2	4,068,520	0	4,068,520	2,034,260
肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	肝癌, 肝細胞癌, 肝内胆管癌	11	13,236,700	8,354,620	21,591,320	1,962,847
その他の内分泌, 栄養及び代謝疾患	ビタミン欠乏症, 栄養失調, 肥満症	12	11,615,490	11,666,470	23,281,960	1,940,163
関節症	関節症, 外傷性膝関節症, 変形性関節症	21	40,559,690	0	40,559,690	1,931,414
胃の悪性新生物<腫瘍>	胃癌, 胃重複癌, 胃進行癌	21	22,776,520	16,008,590	38,785,110	1,846,910
その他の心疾患	心筋症, 心不全, 不整脈	48	77,806,010	10,553,400	88,359,410	1,840,821
その他の脳血管疾患	脳卒中, 脳動脈瘤, 脳血栓症	4	7,357,530	0	7,357,530	1,839,383
その他の悪性新生物<腫瘍>	前立腺癌, 甲状腺癌, 皮膚癌	101	125,840,220	50,708,970	176,549,190	1,748,012
肝硬変 (アルコール性のものを除く)	肝硬変症, 原発性胆汁性肝硬変	1	0	1,731,690	1,731,690	1,731,690
その他の循環器系の疾患	動脈瘤, 肺梗塞, 動脈狭窄	15	24,828,710	695,260	25,523,970	1,701,598
脳梗塞	脳梗塞, 出血性脳梗塞, 血栓性脳梗塞	21	35,645,940	0	35,645,940	1,697,426

3.2.3 大分類による疾病別医療費

3.2.3.1 狛江市国民健康保険全体

疾病項目毎に医療費統計、レセプト件数、患者数を算出しました。医療費総計の上位5疾病は上から、「II.新生物」、「IX.循環器系の疾患」、「I III.筋骨格系疾及び結合組織の疾患」、「IV.内分泌、栄養及び代謝疾患」、「X I. 消化器系の疾患」となっており、上位5疾病で医療費総計の5割以上(54.7%)を占めています。

また、医療費総計は患者数と一人当たり医療費が関係しており、「II.新生物」、「IX.循環器系の疾患」の上位2疾病は一人当たり医療費が高く、それ以外の「X III.筋骨格系疾及び結合組織の疾患」、「IV.内分泌、栄養及び代謝疾患」、「X I. 消化器系の疾患」については患者数が多いことが分かります(図表 61)。

³⁵ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月~令和5年3月診療分(12カ月分)。

図表 61: 大分類による疾病別医療費統計³⁶

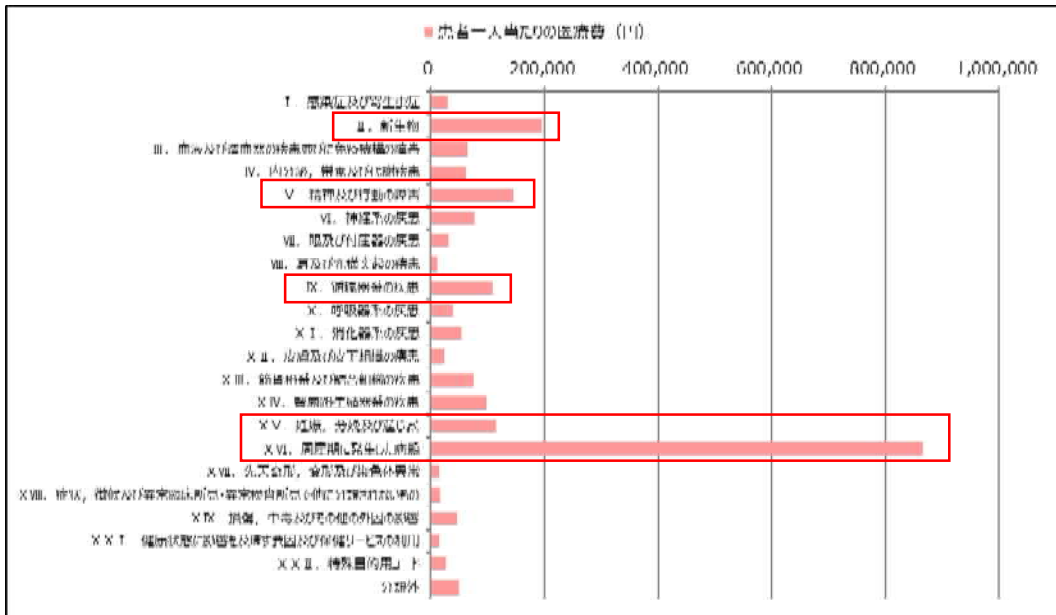
※各項目毎に上位5疾病を 網掛け 表示する。

疾病項目(大分類)	A			B		C		A/C	
	医療費総計 (円) ※	構成比 (%)	順位	医科 レセプト 件数 ※	順位	患者数 ※	順位	患者一人 当たりの 医療費 (円)	順位
I. 感染症及び寄生虫症	127,982,370	2.6%	13	9,955	13	4,179	10	30,625	16
II. 新生物	854,427,560	17.2%	1	12,716	11	4,352	9	196,330	2
III. 血液及び血管系の疾患並びに免疫機構の障害	87,874,400	1.8%	15	3,568	16	1,349	17	65,140	9
IV. 内分泌, 栄養及び代謝疾患	405,745,180	8.2%	4	37,003	1	6,589	3	61,579	10
V. 精神及び行動の障害	329,994,170	6.7%	7	15,058	8	2,257	15	146,209	3
VI. 神経系の疾患	283,166,300	5.7%	9	23,222	6	3,708	12	76,366	7
VII. 眼及び付属器の疾患	190,746,140	3.8%	10	15,050	9	5,917	5	32,237	15
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	18,328,980	0.4%	18	2,923	18	1,521	16	12,051	22
IX. 循環器系の疾患	619,464,300	12.5%	2	35,335	2	5,723	6	108,241	5
X. 呼吸器系の疾患	303,857,630	6.1%	8	25,312	5	7,810	1	38,906	14
X I. 消化器系の疾患	375,694,980	7.6%	5	32,440	3	6,879	2	54,615	11
X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	138,479,530	2.8%	12	18,105	7	5,643	7	24,540	18
X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	455,025,280	9.2%	3	30,182	4	6,009	4	75,724	8
X IV. 泌尿路生殖器系の疾患	355,903,600	7.2%	6	12,044	12	3,592	13	99,082	6
X V. 妊娠, 分娩及び産じょく	11,462,370	0.2%	20	193	21	100	20	114,624	4
X VI. 周産期に発生した病態	19,923,010	0.4%	17	48	22	23	22	866,218	1
X VII. 先天奇形, 変形及び染色体異常	3,701,960	0.1%	22	545	19	253	19	14,632	21
X VIII. 症状, 徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	87,315,270	1.8%	16	14,542	10	5,335	8	16,366	19
X IX. 損傷, 中毒及びその他の外因の影響	161,838,110	3.3%	11	8,643	14	3,476	14	46,559	13
X X I. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	13,905,520	0.3%	19	3,274	17	915	18	15,197	20
X X II. 特殊目的用コード	109,769,760	2.2%	14	6,502	15	4,155	11	26,419	17
分類外	4,032,600	0.1%	21	300	20	82	21	49,178	12
合計	4,958,639,020	100.0%		134,952		15,089		328,626	

患者一人当たりの医療費が高額な上位5疾病は「周産期に発生した病態」、「新生物」、「精神及び行動の障害」、「妊娠, 分娩及び産じょく」、「循環器系の疾患」となります。特に「周産期に発生した病態」が高額となっていますが、これは当該疾病の患者数が少ないため、一人当たり医療費が高い1件の特に高額なレセプトための影響を強く受けたためです(図表 62)。

³⁶ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。医療費総計・大分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。医科レセプト件数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。患者数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

図表 62: 患者一人当たりの医療費³⁷

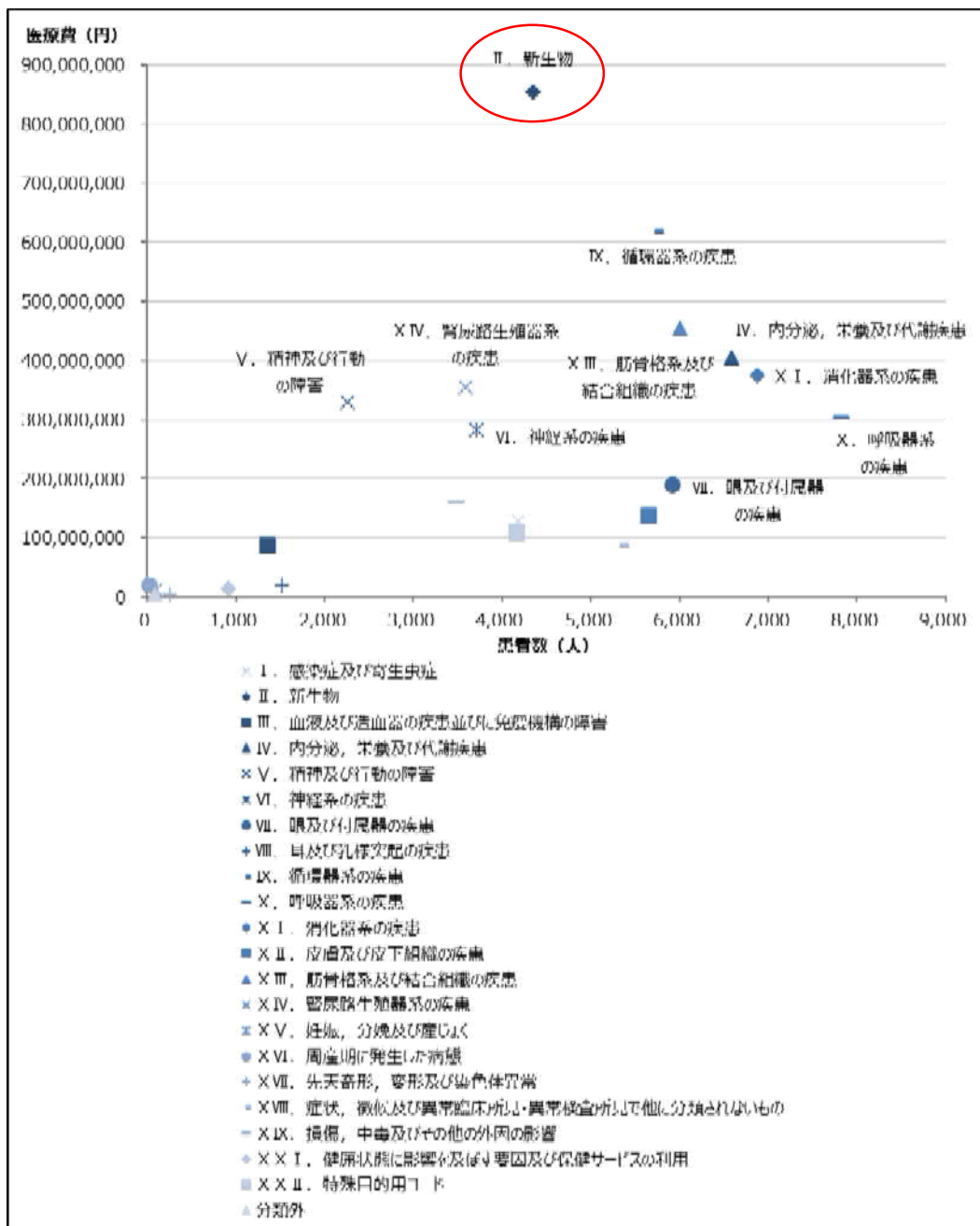


医療費額や患者数の大きい疾病項目について、医療費と患者数をグラフで示します。「II.新生物」の相対的な医療費が他の疾病と比較して高いことが分かります。前期狛江市国民健康保険データヘルス計画と比較すると、前期計画では約8億円だった医療費が本計画では9億円に近づく勢いとなっており、この傾向が近年より見られるものであることが分かります(図表 63)³⁸。

³⁷ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月~令和5年3月診療分(12カ月分)。

³⁸ 狛江市役所.(2017). 狛江市国民健康保険データヘルス計画 狛江市役所
<https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/46,79932,c/html/79932/20170414-095807.pdf>

図表 63: 大分類による疾病別医療費統計³⁹



狛江市国民健康保険における、疾病別医療費統計を入院・入院外別に示します。前期狛江市国民健康保険データヘルス計画⁴⁰と比較すると、「新生物」では、入院医療費は

³⁹ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。

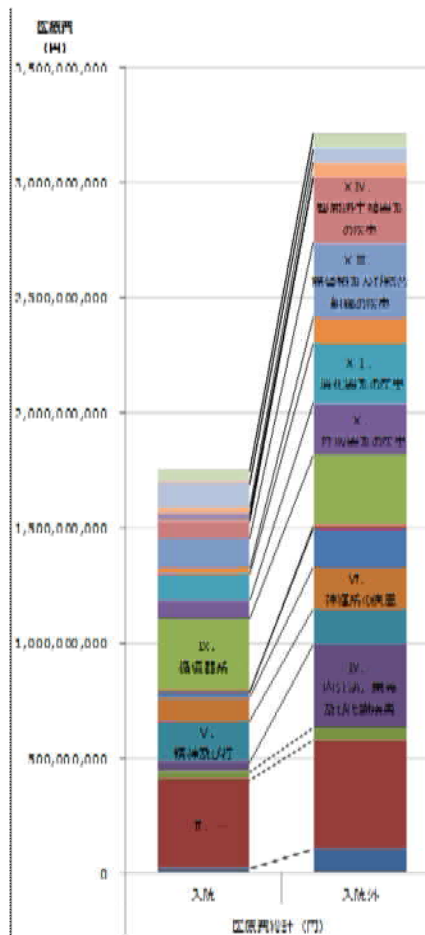
⁴⁰ 狛江市役所.(2017). 狛江市国民健康保険データヘルス計画 狛江市役所

<https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/46,79932,c.html/79932/20170414-095807.pdf>

22.15%減少している一方、入院外医療費は51.67%増加しており、悪性新生物の治療が入院から外来へと推移していることが分かります（図表64）。

図表 64: 大分類による疾病別医療費統計（入院・入院外）⁴¹

疾病項目（大分類）	医療費総計（円）※	
	入院	入院外
I. 感染症及び畜牛伝染症	21,180,600	106,801,770
II. 新生物	383,374,040	471,052,620
III. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	35,479,160	52,395,240
IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	43,807,870	701,937,710
V. 精神及び行動の障害	175,556,930	154,437,240
VI. 神経系の疾患	103,242,770	179,923,530
VII. 眼及び付属器の疾患	23,136,730	167,609,410
VIII. 耳及び乳様突起の疾患	2,457,510	15,871,470
IX. 循環器系の疾患	715,703,740	704,001,560
X. 呼吸器系の疾患	77,500,140	226,357,490
XI. 消化器系の疾患	118,396,330	257,298,650
XII. 皮膚及び皮下組織の疾患	22,655,320	115,824,210
XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患	171,574,970	727,500,710
XIV. 泌尿生殖器系の疾患	72,505,310	287,790,290
XV. 妊娠、分娩及び産後	10,395,390	1,066,980
XVI. 周産期に発生した病態	19,855,300	67,710
XVII. 先天畸形、変形及び染色体異常	1,439,380	2,262,580
XVIII. 神経、感覚及び運動神経系、免疫検疫系と密に分類されないもの	27,215,510	60,099,760
XIX. 損傷、中毒及びその他の外因の影響	104,876,210	56,961,900
XXI. 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6,784,000	7,121,520
XXII. 特殊目的用コード	51,722,940	58,046,820
分類外	484,610	3,547,990
合計	1,748,974,660	3,209,664,360



狛江市国民健康保険における年齢階層別の医療費額上位5疾病を示します。29歳以下は「X. 呼吸器系の疾患」が1位または2位、30歳から54歳では「V. 精神及び行動の障害」が1位または2位、55歳以上では「II. 新生物」、「IX. 循環器系の疾患」が1位または2位を占めています。さらに60歳以上になると「XIII. 筋骨格系及び結合組織の疾患」が上位3疾病に位置しています。「V. 精神及び行動の障害」は10歳から24歳の年齢層でも上位5疾病に位置しており、若年層から発症していることが分かります（図表65）。

⁴¹ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分（12カ月分）。医療費総計・大分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない（画像レセプト、月遅れ等）場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。

図表 65: 年齢階層別医療費大分類上位5疾病 (全体) ⁴²

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X VI. 周産期に発生した病態	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	II. 新生物	VII. 眼及び付属器の疾患
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	VII. 眼及び付属器の疾患	X X II. 特殊目的用コード
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	V. 精神及び行動障害	X X II. 特殊目的用コード
15歳～19歳	VI. 神経系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	V. 精神及び行動障害
20歳～24歳	X I. 消化器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響
30歳～34歳	II. 新生物	V. 精神及び行動障害	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	VI. 神経系の疾患	X. 呼吸器系の疾患
35歳～39歳	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	II. 新生物	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X I. 消化器系の疾患
40歳～44歳	V. 精神及び行動障害	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	VI. 神経系の疾患
45歳～49歳	V. 精神及び行動障害	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	VI. 神経系の疾患
50歳～54歳	V. 精神及び行動障害	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
55歳～59歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	V. 精神及び行動障害	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患
60歳～64歳	IX. 循環器系の疾患	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	V. 精神及び行動障害	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患
65歳～69歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患
70歳～	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患

図表 66 に男性における年齢階層別の医療費額上位5疾病を、図表 67 に女性における年齢階層別の医療費額上位5疾病を示します。前期狛江市国民健康保険データヘルス計画⁴³と比較すると、30歳以降で「II.新生物」の割合が顕著に増加していることが分かります。特に30歳から44歳までの若い世代で「II.新生物」が1位となっています。

⁴² 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。

⁴³ 狛江市役所 (2017). 狛江市国民健康保険データヘルス計画 狛江市役所

<https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/46,79932,c.html/79932/20170414-095807.pdf>

この傾向は、乳がんや子宮頸がんといった女性特有のがんの特徴を反映していると推察されます。

「IX.循環器系の疾患」について、男女合計では45歳以降で上位5疾病に位置し、55歳以降からは「II.新生物」に並んで1位または2位に位置しています(図表65)。男女で比較すると、男性では40歳以降で上位5疾病に位置し、45歳以降は1位または2位に位置しています(図表66)。一方、女性の上位5疾病に「IX.循環器系の疾患」が位置するのは50歳以降であり、以降の年齢区分でも、3位または4位に留まります(図表67)。「IX.循環器系の疾患」の医療費が男性に偏っていることが分かります。

「XIII.筋骨格系及び結合組織の疾患」について、男女合計では40歳から44歳と60歳以降で上位5疾患に位置しています(図表65)。男性では40歳から44歳で上位5疾病に位置しているが、それ以外の年齢区分には入っていません(図表66)。一方で、女性では40歳から44歳と60歳以降で上位1, 2位に位置しており(図表67)、性別による疾病傾向を反映していると考えられます。

図表 66: 年齢階層別医療費大分類上位5疾病 (男性)⁴⁴

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X. 呼吸器系の疾患	X VI. 周産期に発生した病態	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X VII. 先天奇形変形及び染色体異常
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X X II. 特殊目的用コード
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X X II. 特殊目的用コード
15歳～19歳	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X X II. 特殊目的用コード
20歳～24歳	X I. 消化器系の疾患	VI. 神経系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X X II. 特殊目的用コード
25歳～29歳	X. 呼吸器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響
30歳～34歳	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動障害	VI. 神経系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響
35歳～39歳	V. 精神及び行動障害	X I. 消化器系の疾患	X. 呼吸器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患
40歳～44歳	V. 精神及び行動障害	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	VI. 神経系の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX. 循環器系の疾患
45歳～49歳	IX. 循環器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	II. 新生物
50歳～54歳	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IX. 循環器系の疾患	I. 感染症及び寄生虫症	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動障害
55歳～59歳	IX. 循環器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動障害	X I. 消化器系の疾患
60歳～64歳	IX. 循環器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	II. 新生物	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	V. 精神及び行動障害
65歳～69歳	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	VI. 神経系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患
70歳～	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患

⁴⁴ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。

図表 67: 年齢階層別医療費大分類上位5疾病 (女性)⁴⁵

年齢階層	1	2	3	4	5
0歳～4歳	X VI. 周産期に発生した病態	II. 新生物	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患
5歳～9歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	X X II. 特殊目的用コード
10歳～14歳	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	VII. 眼及び付属器の疾患	X X II. 特殊目的用コード	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響
15歳～19歳	VI. 神経系の疾患	X VIII. 症状徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患
20歳～24歳	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X. 呼吸器系の疾患	V. 精神及び行動障害	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
25歳～29歳	V. 精神及び行動障害	X IX. 損傷、中毒及びその他外因の影響	X. 呼吸器系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
30歳～34歳	II. 新生物	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	X V. 妊娠、分娩及び産じょく	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
35歳～39歳	II. 新生物	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患	VI. 神経系の疾患
40歳～44歳	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	V. 精神及び行動障害	X. 呼吸器系の疾患	X IV. 腎尿路生殖器系の疾患
45歳～49歳	V. 精神及び行動障害	VI. 神経系の疾患	X II. 皮膚及び皮下組織の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X. 呼吸器系の疾患
50歳～54歳	V. 精神及び行動障害	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	X I. 消化器系の疾患
55歳～59歳	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	V. 精神及び行動障害	IX. 循環器系の疾患	VI. 神経系の疾患
60歳～64歳	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	II. 新生物	IX. 循環器系の疾患	V. 精神及び行動障害	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患
65歳～69歳	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX. 循環器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患	X I. 消化器系の疾患
70歳～	II. 新生物	X III. 筋骨格系及び結合組織の疾患	IX. 循環器系の疾患	X I. 消化器系の疾患	IV. 内分泌、栄養及び代謝疾患

3.2.3.2 エリア分類

大分類による疾病別の医療費について、日常生活圏域エリア別に集計しました。エリアごとの疾病別医療費総計及び患者数の特性に顕著な差がないことがわかります（図表 68、図表 69）。

⁴⁵ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC 含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。

図表 68: 大分類による医療費総計の上位5疾病⁴⁶

エリア	医療費総計(順位)				
	1位	2位	3位	4位	5位
あいとびあエリア	Ⅱ. 新生物	Ⅸ. 循環器系の疾患	XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患	XⅠ. 消化器系の疾患
こまえ苑エリア	Ⅱ. 新生物	Ⅸ. 循環器系の疾患	XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患	XⅠ. 消化器系の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患
こまえ正吉苑エリア	Ⅱ. 新生物	Ⅸ. 循環器系の疾患	XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患	XⅣ. 泌尿路生殖器系の疾患

図表 69: 大分類による患者数の上位5疾病⁴⁷

エリア	医療費総計(患者数)				
	1位	2位	3位	4位	5位
あいとびあエリア	X. 呼吸器系の疾患	XⅠ. 消化器系の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患	Ⅶ. 眼及び付属器の疾患	XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患
こまえ苑エリア	X. 呼吸器系の疾患	XⅠ. 消化器系の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患	Ⅶ. 眼及び付属器の疾患	XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患
こまえ正吉苑エリア	X. 呼吸器系の疾患	Ⅳ. 内分泌、栄養及び代謝疾患	XⅠ. 消化器系の疾患	XⅢ. 筋骨格系及び結合組織の疾患	Ⅸ. 循環器系の疾患

一人当たり医療費については、一部の高額な少数疾病の影響によるものを除きエリア別に大きな違いは見られません(図表 70)。

図表 70: 大分類による一人当たり医療費の上位5疾病⁴⁸

エリア	医療費総計(患者数)				
	1位	2位	3位	4位	5位
あいとびあエリア	Ⅱ. 新生物	XⅦ. 周産期に発生した病態	Ⅲ. 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	V. 精神及び行動の障害	XⅤ. 妊娠、分娩及び産じょく
こまえ苑エリア	XⅦ. 周産期に発生した病態	Ⅱ. 新生物	V. 精神及び行動の障害	XⅤ. 妊娠、分娩及び産じょく	Ⅸ. 循環器系の疾患
こまえ正吉苑エリア	Ⅱ. 新生物	V. 精神及び行動の障害	XⅣ. 泌尿路生殖器系の疾患	Ⅸ. 循環器系の疾患	分類外

3.2.4 40歳以上被保険者の健康状態分類

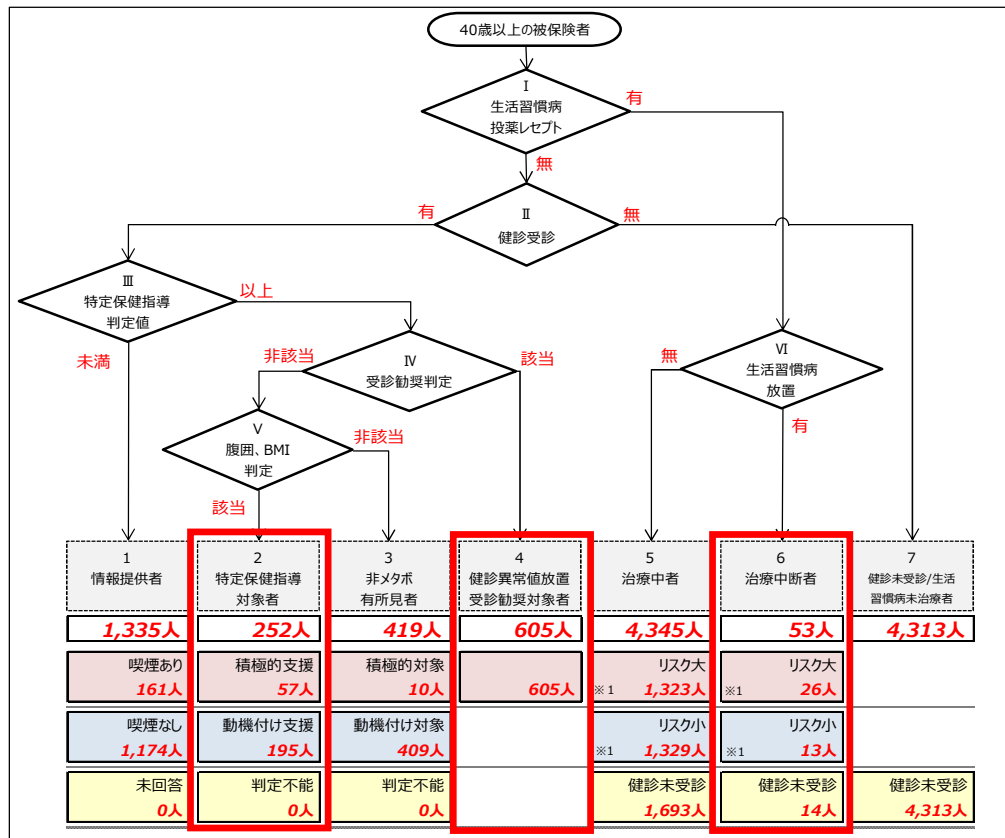
40歳以上の被保険者について、健診データの有無、健診結果の異常値の有無、生活習慣病(糖尿病、高血圧症、脂質異常症)に関わるレセプトの有無等を分析し、7つのグループ分類を行いました(図表 71)。

⁴⁶ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。医療費総計・大分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。医科レセプト件数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。患者数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

⁴⁷ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。医療費総計・大分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。医科レセプト件数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。患者数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

⁴⁸ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科(DPC含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。医療費総計・大分類の疾病項目毎に集計するため医科レセプトが存在しない(画像レセプト、月遅れ等)場合、調剤レセプトの医療費は集計できない。そのため他統計と一致しない。医科レセプト件数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計件数は他統計と一致しない(一件のレセプトに複数の疾病があるため)。患者数・大分類における疾病項目毎に集計するため、合計人数は他統計と一致しない(複数疾病をもつ患者がいるため)。

図表 71: 健診及びレセプトによる指導対象者群分析⁴⁹



図表 71 より、以下の医療費適正化事業・保健事業に関する指導候補者数を分類しました。①、②については本市で既に実施しているため、本項では③の事業について記載します。

- ① 特定保健指導事業
- ② 健診異常値放置者受診勧奨事業
- ③ 生活習慣病治療中断者受診勧奨事業

生活習慣病は一度発症すると治癒することは少ないため病状の重症化予防が重要となります。そのためには定期的な診療が必要であり、継続的な服薬等による治療が求められます。しかし、生活習慣病となった患者の中には服薬等の治療を適切に行わないケース、定期的な診療を自己の判断により止めてしまうケースが少なからず存在します。その結果、生活習慣病が進行し、脳卒中、心筋梗塞などの重篤な疾病を引き起こしてしま

⁴⁹ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC 含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。健診データは令和4年4月～令和5年3月健診分(12カ月分)を集計。※1 健康診査時の検査値についてリスク判定を行い、リスクの“大”“小”を判定。

う可能性があります。図表 71 より、生活習慣病治療中断者は 53 人存在することが分かります。当該 53 人のうち、健診データの検査値に異常が見られないリスク「小」の 13 人を除いた 40 人が候補者になります。なお、ここでの生活習慣病治療中断者には、「癌患者」や「難病患者」など、すでにこれらの疾患について医療機関での治療を受けており、生活習慣病の治療を意図的に中止している人が含まれていることに留意する必要があります。

3.2.5 脳梗塞の発症予防・再発予防

生活習慣病から重症化した疾患のなかでは、脳梗塞の患者数が多く、特に対策が必要な疾病であると考えられています。脳卒中・心筋梗塞における疾病毎の医療費、患者数を集計しました（図表 72）。他の疾病と比較して、特に脳梗塞の患者数は多く、医療費が高いことから脳梗塞について深堀を行います。

図表 72: 脳卒中・心筋梗塞の疾病別医療費および患者数⁵⁰

疾病分類	医療費(円)	患者数 ※ (人)	一人当たり 医療費(円)
脳梗塞	66,283,590	632	104,879
脳内出血	37,309,370	130	286,995
くも膜下出血	12,489,960	40	312,249
心筋梗塞	29,268,420	394	74,285

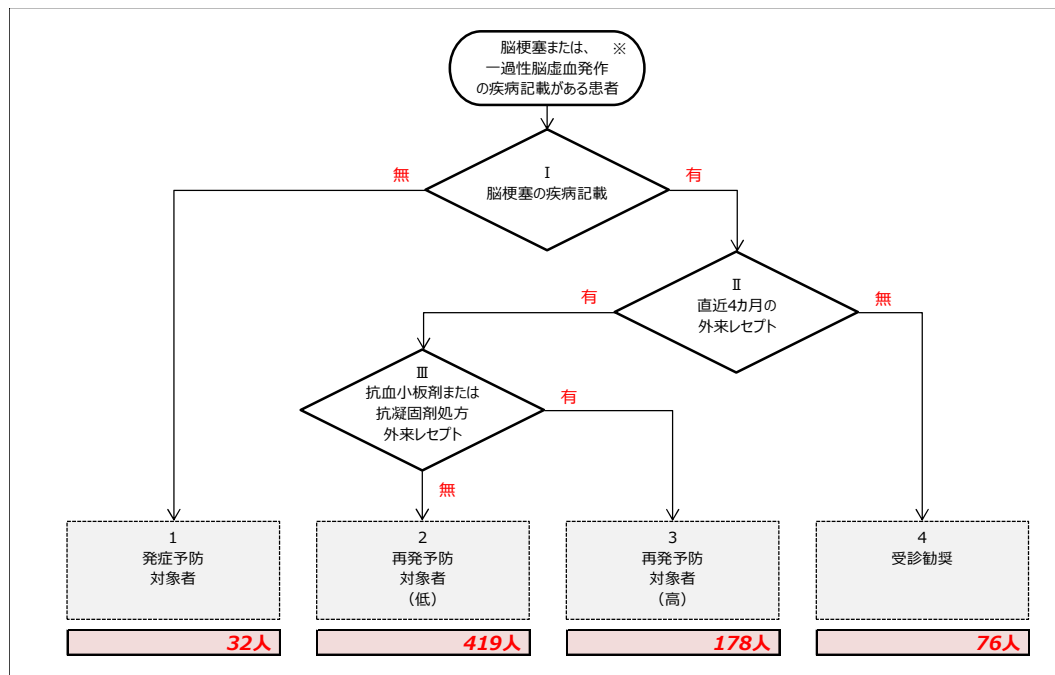
一過性脳虚血発作を発症した患者は、脳梗塞の発症リスクが高いと考えられます。過去に脳梗塞又は、一過性脳虚血発作を発症した患者に対し、疾病・処方医薬品・通院傾向を把握し、発症と再発を予防するための対象者分析を行いました（図表 73）。

一過性脳虚血発作を発症した 32 名の患者は、脳梗塞の発症リスクが高いと考えられるため、発症予防の対象者として分類しました（1.発症予防対象者）。脳梗塞の疾病が確認される患者のうち、直近 4 カ月における外来レセプトが有る場合、再発予防の対象者（2.3.再発予防対象者）として分類しました。その際「抗血小板剤又は、抗凝固剤」処方がある 178 人は優先度が高く、処方がない 419 人は優先度が低いと分類しました。外来レセプトが無い 76 人には、定期的な受診を促す必要が考えられます（4.受診勧奨）。

⁵⁰ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC 含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月診療分（12 カ月分）。対象診療年月内に「脳卒中」もしくは「心筋梗塞」に関する診療行為がある患者を対象に集計。患者数…一人の患者に複数の傷病名が確認できるため、合計は一致しない。

こうした分類を行い、生活習慣の維持、必要に応じて改善を促す保健指導事業の立案等が考えられます。又、危険因子とされる高血圧や糖尿病、喫煙等を対象に予防対策と生活習慣病の重症化予防を併せて実施する等、対象者の負担等を考慮しながら1つの指導事業でより広範囲な対象者をカバーする等の効率性も考慮する必要があります。

図表 73: レセプトによる脳梗塞再発予防指導対象者群分析⁵¹



3.2.6 メンタル疾患

厚生労働省は健康日本21（第2次）において、「社会生活を営むために必要な機能の維持・向上に関する目標」を定め、自殺者の減少や、メンタルヘルスに関する措置を受けられる職場の増加を目指しています。メンタル疾患として代表的な、うつ病を含む気分障害の患者は、厚生労働省の患者調査において近年急速に増加していることが指摘されています。又、うつ病やうつ状態になると喫煙率が高くなる、肥満になる、服薬をしなくなる等、健康的な生活習慣が妨げられる傾向があり、その結果、脳卒中・心筋梗塞等の予後が悪化することが明らかとなっています。⁵²

ここでは、疾病分類の中分類における「0504 気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）」及び、「0505 神経症性障害、ストレス関連障害及び、身体表現性障害」（以下、「神経症、

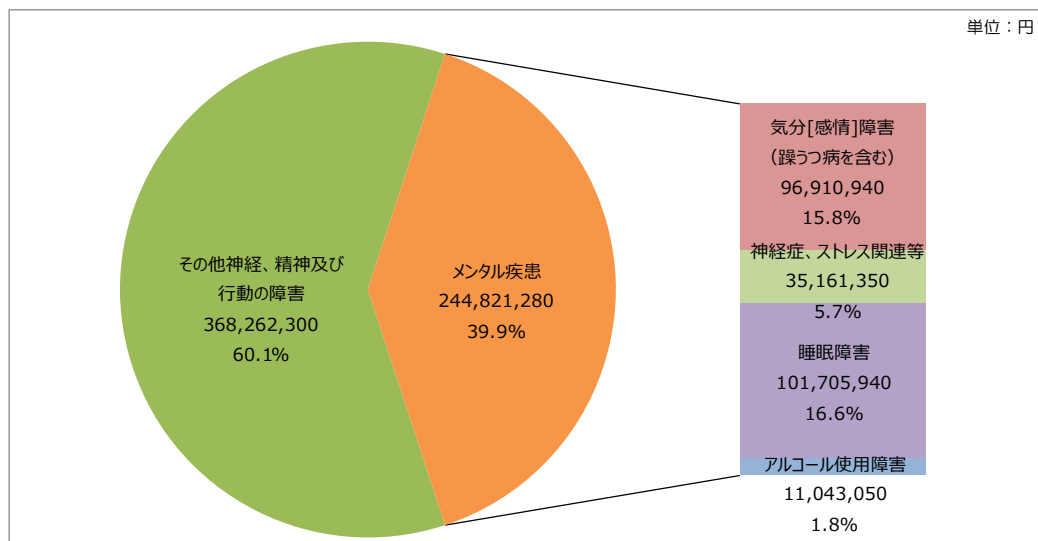
⁵¹ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科（DPC含む）、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分（12カ月分）。脳梗塞または、一過性脳虚血発作の疾病記載がある患者…入院中の恐れがあるため、直近4カ月の脳梗塞の入院レセプトがある患者は除く。

⁵² 「健康日本21（第2次）の推進に関する参考資料」厚生労働省 平成24年

ストレス関連等」と言う)、うつ病と関係性が高い「睡眠障害」、「アルコール使用障害」を“メンタル疾患”とし、分析しました。

大分類による疾病別医療費をみると、医療費全体における「V. 精神及び行動の障害」、「VI. 神経系の疾患」の割合は15.8%でした。このうち“メンタル疾患”の割合を集計すると39.9%でした⁵³ (図表 74)。

図表 74: 「V. 精神及び行動の障害」「VI. 神経系の疾患」のうち“メンタル疾患”の占める医療費割合⁵⁴



メンタル疾患はご本人の生活のQOLだけでなく、職場やご家族等への影響も大きく、軽度な段階で早期発見、早期治療を行い、深刻な症状への進行を防ぐことが大切となります。早期発見するために、住民を対象としたうつ病、抑うつ状態に関する意識調査、メンタルヘルスの相談が行えるように健康相談の体制の充実を図るが重要となります。又、メンタルヘルスについて理解を深めるために、勉強会を開催する、うつ対策を進めている他都道府県、市町村へ視察する等して、適切な対策方法を確立することが大切です。本市では、「こころの健康相談事業」として、様々な相談窓口を準備しています (<https://www.city.komae.tokyo.jp/index.cfm/44,4641,337,2065.html>)。

⁵³ 「V. 精神及び行動の障害」分類には認知症、統合失調症、知的障害等が含まれ、「VI. 神経系の疾患」分類にはパーキンソン病、アルツハイマー病、てんかん等含まれる疾病が多岐にわたる。

⁵⁴ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科 (DPC 含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和4年4月～令和5年3月診療分(12カ月分)。対象診療年月に「気分[感情]障害 (躁うつ病を含む)」もしくは「神経症、ストレス関連等」、「睡眠障害」、「アルコール使用障害」に関する診療行為がある患者を対象に集計。

3.2.7 COPD 患者の実態と潜在患者

COPD とは、たばこの煙等、毒素の吸入により免疫反応が続いた結果、破壊された組織と増えたたん等による気道閉鎖が起こりやすい状態のことを示します。長い経過を経て至る状態であり、そもそも気道や肺胞等の組織が破壊されてしまっていること等から肺炎等への進行へつながりやすく、又、階段や坂道を上るといった、ちょっとした日常生活での運動でも息切れが出てきます。重症の場合には、携帯用酸素ボンベなどを用いて、酸素を補充する必要があります⁵⁵。日本の煙草消費量は近年減少傾向にあります⁵⁶、過去の喫煙習慣による長期的な影響と急速な高齢化により、今後さらに罹患率、有病率、死亡率の増加が続くと予想されます。

COPD 患者の実態と潜在患者について以下の通り示します（図表 75、図表 76）。日本において COPD の治療を行っている患者は約 26 万 1 千人、それに対して潜在患者は 530 万人と推定されています⁵⁶。一方、狛江市国民健康保険の被保険者を対象に令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月診療分(12 カ月分)で分析したところ、治療を行っている患者は 116 人です。日本における治療中患者と潜在患者の比率を参考に、狛江市国民健康保険被保険者に換算すると、潜在患者は推定 2,320 人程度と想定されます。

図表 75: COPD 患者の治療状況と潜在患者数⁵⁷

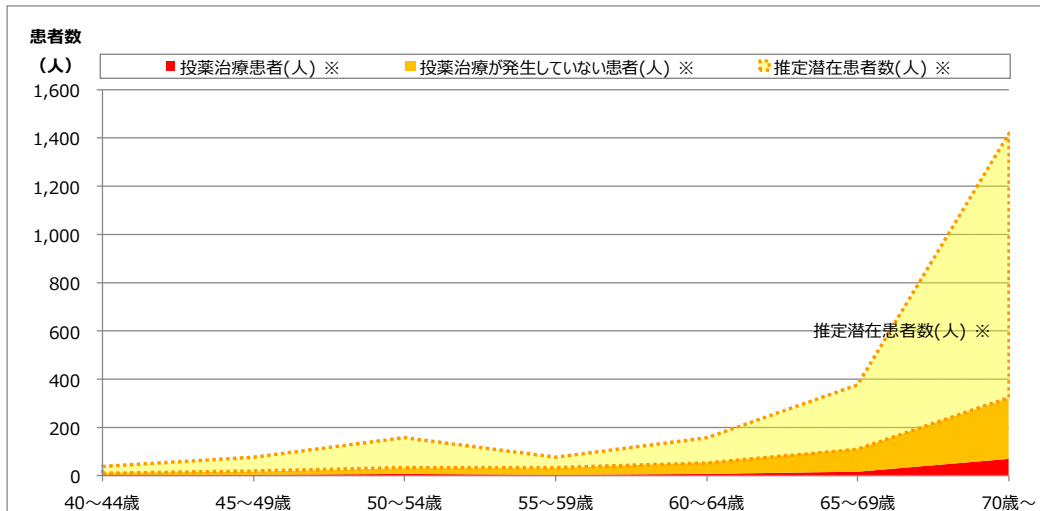
治療状況	治療患者数	潜在患者数
日本 ※	26万1千人	推定530万人
狛江市国民健康保険被保険者 ※	116人 内訳：男性64人(55.2%)、女性52人(44.8%)	推定 2,320人

⁵⁵ 厚生労働省 生活習慣病予防のための健康情報サイト：e-ヘルスネットより引用

⁵⁶ GOLD 日本委員会 (n.d.). *COPD* に関する統計資料 GOLD-jac.jp. http://www.gold-jac.jp/copd_facts_in_japan/

⁵⁷ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。狛江市国民健康保険被保険者…令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月診療分(12 カ月分)レセプト分析による調査。薬物療法が発生している患者のみ。

図表 76: COPD 治療患者数と潜在患者数⁵⁸



COPD の認知度は、「どんな病気かよく知っている」人が 10.4%、「名前は聞いたことがある」人が 17.6% (合計 28.0%) と低く (図表 77)、厚生労働省は健康日本 2 1 (第二次) において令和 4 年度までに認知度を 80% に向上させる目標を明らかにしています。COPD の病期は軽度の I 期から重度の IV 期まで存在します。認知度の低さから、I 期・II 期の段階では医療機関へ受診する人は少なく、III 期・IV 期から医療機関へ受診することが多いと考えられます (図表 78)。COPD 患者の実態と潜在患者及び、COPD の認知度等から COPD の早期発見に向けた啓発事業の検討の必要性があると考えます。COPD 単独での事業でなくても他の疾病との併存していること等も考慮し、効率的な保健事業の実施が求められます。

図表 77: COPD 認知度状況⁵⁹

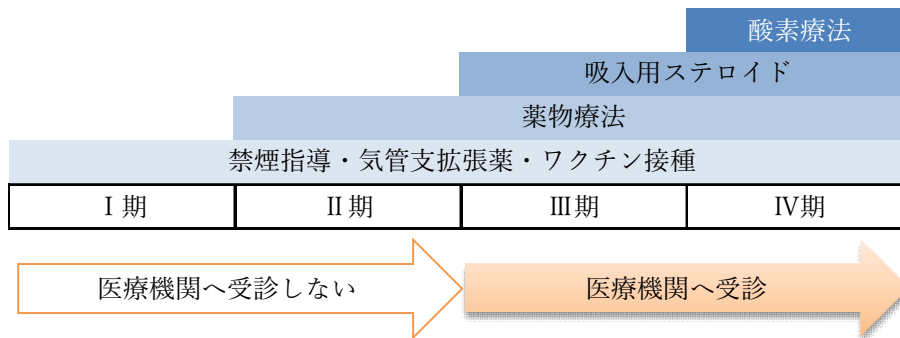
設問：あなたは COPD という病気を知っていますか？		
どんな病気かよく知っている	1,042	10.4%
名前は聞いたことがある	1,756	17.6%
知らない	7,202	72.0%

⁵⁸ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科 (DPC 含む)、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和 4 年 4 月～令和 5 年 3 月診療分 (12 カ月分)。投薬治療患者・対象診療年月に傷病名に慢性閉塞性肺疾患があり、投薬も確認できる患者数。投薬治療が発生していない患者・対象診療年月に傷病名に慢性閉塞性肺疾患があるが投薬は確認できない患者数。推定潜在患者・投薬治療患者の数に対し、日本の潜在患者数を参考に推定した患者数。

⁵⁹ GOLD (The Global Initiative for Chronic Obstructive Lung Disease) 日本委員会調査。

http://www.gold-jac.jp/copd_facts_in_japan/copd_degree_of_recognition.html 1 万人を対象とした調査。(令和 2 年 12 月調査)

図表 78: COPD の病期とレセプト発生



3.2.8 薬剤併用禁忌

併用禁忌薬剤とは、飲み合わせが悪い薬のことです。複数の薬を併用すると、効果が増強又は、減弱し副作用等を生じさせ、時には健康に重大な影響を与える可能性があると考えられています。令和4年度のレセプトデータから併用禁忌薬剤の可能性件数の上位10位までを図表79に示します。

患者がお薬手帳を持参しない場合、薬剤併用禁忌が発生しやすく、患者の健康被害につながる可能性が出てきます。薬剤併用禁忌情報は、各医療機関側では把握しにくい情報であり、地域の情報が集まる保険者だからこそ捉えることができる情報と言えます。保険者が薬剤併用禁忌情報を定期的に把握し、地域の医師会・医療機関との連携をすることで、患者の健康被害防止につながります。

図表 79: 薬剤併用禁忌医薬品リスト (件数上位10位)⁶⁰

No.	(A) 剤型名	(A) 医薬品コード	(A) 医薬品名	(B) 剤型名	(B) 医薬品コード	(B) 医薬品名	件数
1	内服	620005619	リスベドリン錠2mg「サワイ」	外用	620518102	ボスミン外用液0.1%	15
2	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	621558101	SG配合顆粒	9
3	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	620160501	PL配合顆粒	7
4	内服	620160501	PL配合顆粒	内服	622381201	カロナール錠500 500mg	7
5	内服	620160501	PL配合顆粒	内服	621558101	SG配合顆粒	6
6	内服	620002022	カロナール細粒20%	外用	620002621	アンヒバ坐剤小児用100mg	4
7	内服	620002023	カロナール錠200 200mg	内服	622647501	トアラセット配合錠「ケミア」	4
8	内服	620000033	カロナール錠300 300mg	内服	622657101	トアラセット配合錠「トーワ」	4
9	内服	622381201	カロナール錠500 500mg	内服	622661701	トアラセット配合錠「杏林」	4
10	外用	620518102	ボスミン外用液0.1%	内服	622573901	ビブレッツ徐放錠50mg	4

⁶⁰ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。

3.2.9 多剤投与

医薬品の多剤服薬は、高齢になるにつれ複数の病気を持つ人が増え、受診する医療機関が複数になることが原因の一つです。4～6種類以上の多剤投与で薬剤有害事象の発生リスクが高まるとされており、特に高齢者では肝臓や腎臓の働きが弱くなり、薬を分解したり体の外に排泄したりするのに時間がかかるようになるため、便秘やふらつき、めまい等の副作用が起りやすいといわれています。

当該月の受診において内服薬が14日以上処方されておりかつ6種類以上の処方がされている患者を多剤投与候補者としました。本分析では、6種類以上の処方がされている患者であっても、医師の管理のもと適正な服薬の場合もあるため、複数医療機関の受診がある場合を多剤投与候補者としました。分析の結果、年齢別において、高齢者は複数の疾病を有する割合が高く多剤併用になりやすい傾向にあることがわかります。令和5年3月分における多剤投与者は332人です（図表80）。

図表 80: 医療機関数別・医薬品種類数別・年齢階層別患者数・割合（令和5年3月分）⁶¹

対象 医療機関数	年齢階層別	医薬品種類数別（人）					合計 （人）	被保険者数 （人）
		1種類～5種類	6種類以上	内訳				
				6種類～10種類	11種類～15種類	16種類以上		
1 医 療 機 関	00-09歳	94 (0.6%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	95 (0.6%)	567
	10-19歳	134 (0.9%)	2 (0.0%)	2 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	136 (0.9%)	729
	20-29歳	174 (1.1%)	13 (0.1%)	13 (0.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	187 (1.2%)	1,411
	30-39歳	300 (1.9%)	15 (0.1%)	13 (0.1%)	2 (0.0%)	0 (0.0%)	315 (2.0%)	1,544
	40-49歳	385 (2.5%)	59 (0.4%)	52 (0.3%)	6 (0.0%)	1 (0.0%)	444 (2.9%)	1,979
	50-59歳	600 (3.9%)	95 (0.6%)	83 (0.5%)	10 (0.1%)	2 (0.0%)	695 (4.5%)	2,508
	60-69歳	1,177 (7.6%)	231 (1.5%)	203 (1.3%)	25 (0.2%)	3 (0.0%)	1,408 (9.0%)	3,440
	70歳以上	1,350 (8.7%)	278 (1.8%)	243 (1.6%)	32 (0.2%)	3 (0.0%)	1,628 (10.5%)	3,393
合計	4,214 (27.1%)	694 (4.5%)	610 (3.9%)	75 (0.5%)	9 (0.1%)	4,908 (31.5%)	15,571	
2 医 療 機 関 以 上	医薬品種類数別（人）					合計 （人）	被保険者数 （人）	
	1種類～5種類	6種類以上	内訳					
			6種類～10種類	11種類～15種類	16種類以上			
	00-09歳	4 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4 (0.0%)	864
	10-19歳	15 (0.1%)	1 (0.0%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	16 (0.1%)	1,369
	20-29歳	22 (0.1%)	7 (0.0%)	7 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	29 (0.1%)	1,653
	30-39歳	28 (0.1%)	15 (0.1%)	14 (0.0%)	1 (0.0%)	0 (0.0%)	43 (0.1%)	2,063
	40-49歳	26 (0.1%)	21 (0.1%)	14 (0.0%)	5 (0.0%)	2 (0.0%)	47 (0.2%)	3,070
	50-59歳	53 (0.2%)	54 (0.2%)	41 (0.1%)	13 (0.0%)	0 (0.0%)	107 (0.4%)	3,694
60-69歳	124 (0.4%)	100 (0.3%)	79 (0.3%)	18 (0.1%)	3 (0.0%)	224 (0.8%)	7,907	
70歳以上	154 (0.5%)	134 (0.5%)	114 (0.4%)	16 (0.1%)	4 (0.0%)	288 (1.0%)	8,563	
合計	426 (1.5%)	332 (1.1%)	270 (0.9%)	53 (0.2%)	9 (0.0%)	758 (2.6%)	29,183	

多剤投与候補者を対象に、がんや難病、精神疾患、認知症の治療を行っている割合を分析しました（図表81）。医薬品種類数が多くなるにつれて精神疾患やがんの割合が高くなるのがわかります。又、事業効果が高い候補者は、がん、難病や精神、認知症の

⁶¹ 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科、DPC、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和5年3月。内服薬が14日以上処方されている患者を対象としている。薬価基準収載コードの先頭7桁が一致する場合、医薬品種類数を1種類としている。

治療中の患者を除く84人になると考えられます。こうした多剤投与候補者に対する通知事業や、保険者が定期的に把握し、地域の薬剤師会・医療機関との連携しながら候補者への通知による注意喚起を行う等の検討が必要と考えられます。

図表 81: 医薬品種類数別・疾病別患者数 (2023年3月分・複数医療機関の受診)⁶²

医薬品種類数	合計(人)	がん(人)		難病(人)		精神(人)		認知症(人)		左記の疾病を除く(人)	
		割合	割合	割合	割合	割合	割合	割合			
1種類～5種類	426	124	29.1%	35	8.2%	129	30.3%	2	0.5%	192	45.1%
6種類～10種類	270	130	48.1%	30	11.1%	98	36.3%	4	1.5%	77	28.5%
11種類～15種類	53	38	71.7%	13	24.5%	15	28.3%	1	1.9%	7	13.2%
16種類以上	9	8	88.9%	3	33.3%	5	55.6%	2	22.2%	0	0.0%
総計	758	300	39.6%	81	10.7%	247	32.6%	9	1.2%	276	36.4%
										通知対象の候補者	84

3.2.10 被保険者の生活習慣病の分析

本節では、被保険者の生活習慣病（「糖尿病」、「脂質異常症」、「高血圧症」、「腎不全」）に着目し、分析を行いました。

3.2.10.1 医療情報ワースト5の抽出並びに年齢及び性別等の整理

医療費の観点から平成30年度と令和4年度の疾病ランキングを分析し、年齢階層ごとに整理しました。平成30年度及び令和4年度における年齢階層別医療費のワースト5をそれぞれ図表82、図表83に示します。

「糖尿病」は、60歳以上を中心にワースト5に位置しており、令和4年度では55歳～59歳からワースト5に位置しています。

「脂質異常症」、「高血圧症」は、ランキング外となっています。

「腎不全」は、45歳以上を中心に上位を占めています。令和4年度では25歳～29歳、35歳～39歳でワースト5に位置していますが、腎不全は一人あたり医療費が高額なため若年化が進行したとは言い切れないと考えます。

⁶² 本計画策定受託業者による医療費分析等を基にした統計分析データによる。レセプトデータは医科、DPC、調剤の電子レセプトを集計。対象診療年月は令和5年3月。内服薬が14日以上処方されている患者を対象としている。薬価基準収載コードの先頭7桁が一致する場合、医薬品種類数を1種類としている。

図表 82: 年齢階層別医療費 (全体) のワースト5 (平成30年度)⁶³

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	喘息	その他の先天奇形、変形及び染色体異常	心臓の先天奇形	その他の周産期に発生した病態	皮膚炎及び湿疹
05歳～09歳	喘息	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹
10歳～14歳	喘息	アレルギー性鼻炎	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の損傷及びその他の外因の影響
15歳～19歳	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	骨折	その他の呼吸器系の疾患	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の損傷及びその他の外因の影響
20歳～24歳	その他の神経系の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の損傷及びその他の外因の影響	アレルギー性鼻炎
25歳～29歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の消化器系の疾患	その他の妊娠、分娩及び産じょく	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	その他の神経系の疾患
30歳～34歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	くも膜下出血	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	その他の神経系の疾患	その他の妊娠、分娩及び産じょく
35歳～39歳	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他のウイルス性疾患	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	その他の神経系の疾患
40歳～44歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	脳内出血	皮膚炎及び湿疹	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患
45歳～49歳	その他の消化器系の疾患	その他の循環器系の疾患	腎不全	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の神経系の疾患
50歳～54歳	腎不全	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の消化器系の疾患	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)
55歳～59歳	乳房の悪性新生物<腫瘍>	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の心疾患	腎不全	その他の消化器系の疾患
60歳～64歳	腎不全	その他の神経系の疾患	その他の悪性新生物<腫瘍>	糖尿病	その他の消化器系の疾患
65歳～69歳	腎不全	その他の悪性新生物<腫瘍>	貧血	その他の心疾患	その他の消化器系の疾患
70歳～74歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	腎不全	その他の消化器系の疾患	糖尿病	その他の心疾患

図表 83: 年齢階層別医療費 (全体) のワースト5 (令和4年度)⁶⁴

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	妊娠及び胎児発育に関連する障害	白血病	その他の周産期に発生した病態	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性気管支炎及び急性細気管支炎
05歳～09歳	喘息	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患
10歳～14歳	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	その他の精神及び行動の障害	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の損傷及びその他の外因の影響
15歳～19歳	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の神経系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	その他の精神及び行動の障害
20歳～24歳	その他の消化器系の疾患	その他の特殊目的用コード	てんかん	骨折	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	その他の消化器系の疾患	骨折	腎不全	その他の特殊目的用コード	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)
30歳～34歳	白血病	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の神経系の疾患	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)
35歳～39歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の消化器系の疾患	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	その他の神経系の疾患	腎不全
40歳～44歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の神経系の疾患	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	その他の悪性新生物<腫瘍>	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)
45歳～49歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	腎不全	その他の神経系の疾患	その他の心疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患
50歳～54歳	腎不全	その他の消化器系の疾患	気分〔感情〕障害(躁うつ病を含む)	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の神経系の疾患
55歳～59歳	腎不全	その他の心疾患	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の消化器系の疾患	糖尿病
60歳～64歳	腎不全	その他の悪性新生物<腫瘍>	糖尿病	その他の神経系の疾患	その他の消化器系の疾患
65歳～69歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	腎不全	その他の神経系の疾患	その他の消化器系の疾患	糖尿病
70歳～74歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の心疾患	その他の消化器系の疾患	腎不全	糖尿病

次に、平成30年度及び令和4年度における男性の年齢階層別医療費のワースト5をそれぞれ図表84、図表85に、平成30年度及び令和4年度における女性の年齢階層別医療費のワースト5をそれぞれ図表86、図表87に示します。

図表84、図表85より、男性の「糖尿病」は50歳以上を中心にワースト5に位置しています。男女全体(図表82、図表83)と比較して若い層からワースト5に位置しており、図表86、図表87より、女性の「糖尿病」は60歳以上を中心にワースト5に位置していることから、当疾病は、男性は若い段階から発症する傾向にあることがわかり

⁶³ 平成30年度のレセプトデータによる。

⁶⁴ 令和4年度のレセプトデータによる。

ます。また、男性の「糖尿病」は、令和4年度では45歳～49歳からワースト5に位置しています。

図表84、図表85より、男性の「脂質異常症」、「高血圧症」はランキング外となっています。一方、図表86、図表87より、女性の「脂質異常症」は平成30年度では65歳以上でワースト5に位置しており、女性の「高血圧症」は65歳以上でワースト5に位置しています。また、女性の「脂質異常症」は令和4年度ではランキング外となっており、女性の「高血圧症」は令和4年度では平成30年度よりランキングが下がっています。

図表84、図表85より、男性は経年で「腎不全」が上位を占めていますが、図表86、図表87より、女性はランキング外となっており、当疾病が男性で発症する傾向にあることがわかります。

図表84: 年齢階層別医療費（男性）のワースト5（平成30年度）⁶⁵

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	喘息	その他の先天奇形、変形及び染色体異常	心臓の先天奇形	その他のウイルス性疾患	その他の周産期に発生した病態
05歳～09歳	喘息	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹
10歳～14歳	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	アレルギー性鼻炎	喘息	その他の損傷及びその他の外因の影響	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
15歳～19歳	肝及び肝内胆管の悪性新生物<腫瘍>	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の呼吸器系の疾患	その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	アレルギー性鼻炎
20歳～24歳	その他の損傷及びその他の外因の影響	その他の精神及び行動の障害	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	アレルギー性鼻炎
25歳～29歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の神経系の疾患	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害
30歳～34歳	くも膜下出血	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の神経系の疾患	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	結腸の悪性新生物<腫瘍>
35歳～39歳	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	腎不全	その他のウイルス性疾患	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）
40歳～44歳	脳内出血	その他の消化器系の疾患	その他の精神及び行動の障害	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の神経系の疾患
45歳～49歳	その他の循環器系の疾患	腎不全	その他の消化器系の疾患	その他のウイルス性疾患	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群
50歳～54歳	腎不全	その他の消化器系の疾患	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	糖尿病	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）
55歳～59歳	その他の心疾患	腎不全	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	糖尿病	脳梗塞
60歳～64歳	腎不全	その他の神経系の疾患	その他の心疾患	糖尿病	その他の悪性新生物<腫瘍>
65歳～69歳	腎不全	貧血	その他の心疾患	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の消化器系の疾患
70歳～74歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	腎不全	その他の消化器系の疾患	糖尿病	その他の心疾患

⁶⁵ 平成30年度のレセプトデータによる。

図表 85: 年齢階層別医療費（男性）のワースト5（令和4年度）⁶⁶

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	その他の周産期に発生した病態	骨折	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性気管支炎及び急性細気管支炎
05歳～09歳	喘息	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	頭蓋内損傷及び内臓の損傷	その他の呼吸器系の疾患	アレルギー性鼻炎
10歳～14歳	アレルギー性鼻炎	その他の精神及び行動の障害	その他の特殊目的用コード	その他の損傷及びその他の外因の影響	喘息
15歳～19歳	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の損傷及びその他の外因の影響
20歳～24歳	その他の消化器系の疾患	てんかん	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	アレルギー性鼻炎
25歳～29歳	腎不全	その他の消化器系の疾患	その他の特殊目的用コード	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	その他の呼吸器系の疾患
30歳～34歳	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の神経系の疾患	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	その他の特殊目的用コード
35歳～39歳	その他の消化器系の疾患	腎不全	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	その他の神経系の疾患	慢性副鼻腔炎
40歳～44歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	骨折	その他の神経系の疾患	その他の心疾患	腎不全
45歳～49歳	腎不全	その他の心疾患	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	糖尿病	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
50歳～54歳	腎不全	その他のウイルス性疾患	その他の消化器系の疾患	糖尿病	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
55歳～59歳	腎不全	その他の心疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	脳梗塞
60歳～64歳	腎不全	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	脳梗塞	糖尿病	その他の消化器系の疾患
65歳～69歳	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	その他の神経系の疾患	腎不全	糖尿病	その他の消化器系の疾患
70歳～74歳	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	腎不全	その他の心疾患	貧血	糖尿病

図表 86: 年齢階層別医療費（女性）のワースト5（平成30年度）⁶⁷

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	その他の先天奇形、変形及び染色体異常	その他の周産期に発生した病態	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の急性上気道感染症	皮膚炎及び湿疹
05歳～09歳	喘息	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性咽頭炎及び急性扁桃炎
10歳～14歳	喘息	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	てんかん
15歳～19歳	骨折	その他の呼吸器系の疾患	その他の損傷及びその他の外因の影響	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	アレルギー性鼻炎
20歳～24歳	その他の神経系の疾患	炎症性多発性関節障害	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	乳房の悪性新生物〈腫瘍〉
25歳～29歳	その他の妊娠、分娩及び産じょく	その他の消化器系の疾患	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	その他の神経系の疾患	その他の呼吸器系の疾患
30歳～34歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の妊娠、分娩及び産じょく	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	子宮の悪性新生物〈腫瘍〉	良性新生物〈腫瘍〉及びその他の新生物〈腫瘍〉
35歳～39歳	炎症性多発性関節障害	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	その他の神経系の疾患	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
40歳～44歳	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	皮膚炎及び湿疹	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	その他の妊娠、分娩及び産じょく	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）
45歳～49歳	その他の消化器系の疾患	乳房の悪性新生物〈腫瘍〉	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	喘息	良性新生物〈腫瘍〉及びその他の新生物〈腫瘍〉
50歳～54歳	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	腎不全	気管、気管支及び肺の悪性新生物〈腫瘍〉	乳房の悪性新生物〈腫瘍〉
55歳～59歳	乳房の悪性新生物〈腫瘍〉	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	その他の神経系の疾患	その他の悪性新生物〈腫瘍〉
60歳～64歳	乳房の悪性新生物〈腫瘍〉	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	その他の神経系の疾患	その他の消化器系の疾患	糖尿病
65歳～69歳	その他の悪性新生物〈腫瘍〉	高血圧性疾患	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の消化器系の疾患	脂質異常症
70歳～74歳	骨の密度及び構造の障害	関節症	高血圧性疾患	糖尿病	脂質異常症

⁶⁶ 令和4年度のレセプトデータによる。

⁶⁷ 平成30年度のレセプトデータによる。

図表 87: 年齢階層別医療費（女性）のワースト5（令和4年度）⁶⁸

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	妊娠及び胎児発育に関連する障害	白血病	その他の眼及び付属器の疾患	その他の肝疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
05歳～09歳	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の特殊目的用コード	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	てんかん
10歳～14歳	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の損傷及びその他の外因の影響
15歳～19歳	その他の神経系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	脳性麻痺及びその他の麻痺性症候群	その他の精神及び行動の障害	その他の特殊目的用コード
20歳～24歳	骨折	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	月経障害及び閉経周辺期障害
25歳～29歳	骨折	その他の妊娠、分娩及び産じょく	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
30歳～34歳	白血病	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	その他の妊娠、分娩及び産じょく	アレルギー性鼻炎
35歳～39歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	その他の神経系の疾患	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害
40歳～44歳	乳房の悪性新生物<腫瘍>	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	その他の悪性新生物<腫瘍>	乳房及びその他の女性生殖器の疾患	炎症性多発性関節障害
45歳～49歳	その他の神経系の疾患	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	皮膚炎及び湿疹	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	その他の消化器系の疾患
50歳～54歳	気分〔感情〕障害（躁うつ病を含む）	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の筋骨格系及び結合組織の疾患
55歳～59歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の神経系の疾患	乳房の悪性新生物<腫瘍>	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の消化器系の疾患
60歳～64歳	その他の神経系の疾患	乳房の悪性新生物<腫瘍>	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	その他の心疾患	その他の消化器系の疾患
65歳～69歳	腎不全	その他の消化器系の疾患	乳房の悪性新生物<腫瘍>	糖尿病	高血圧性疾患
70歳～74歳	その他の悪性新生物<腫瘍>	その他の消化器系の疾患	骨の密度及び構造の障害	高血圧性疾患	乳房の悪性新生物<腫瘍>

平成30年度及び令和4年度における年齢階層別患者数のワースト5をそれぞれ図表88、図表89に示します。

「糖尿病」は、55歳以上において上位を占めており、医療費のランキングは低くとも患者数は多いことがわかります。

「脂質異常症」は、平成30年度では65歳以上でワースト5に位置しており、令和4年度では60歳以上でワースト5に位置しています。

「高血圧症」は、60歳以上で上位に位置しており、令和4年度では55歳～59歳でもワースト5に位置しています。

⁶⁸ 令和4年度のレセプトデータによる。

図表 88: 年齢階層別患者数 (全体) のワースト5 (平成30年度)⁶⁹

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	急性気管支炎及び急性細気管支炎
05歳～09歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	皮膚炎及び湿疹	喘息
10歳～14歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	屈折及び調節の障害	結膜炎	その他の呼吸器系の疾患
15歳～19歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	その他の呼吸器系の疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	屈折及び調節の障害
20歳～24歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の呼吸器系の疾患
25歳～29歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の呼吸器系の疾患
30歳～34歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	胃炎及び十二指腸炎
35歳～39歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
40歳～44歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
45歳～49歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	胃炎及び十二指腸炎	皮膚炎及び湿疹
50歳～54歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の急性上気道感染症	その他の消化器系の疾患	胃炎及び十二指腸炎
55歳～59歳	胃炎及び十二指腸炎	アレルギー性鼻炎	その他の消化器系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	糖尿病
60歳～64歳	糖尿病	高血圧性疾患	その他の消化器系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	胃炎及び十二指腸炎
65歳～69歳	高血圧性疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	脂質異常症
70歳～74歳	高血圧性疾患	その他の消化器系の疾患	糖尿病	脂質異常症	その他の眼及び付属器の疾患

図表 89: 年齢階層別患者数 (全体) のワースト5 (令和4年度)⁷⁰

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性気管支炎及び急性細気管支炎	その他の急性上気道感染症	その他の特殊目的用コード
05歳～09歳	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性気管支炎及び急性細気管支炎
10歳～14歳	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	屈折及び調節の障害	結膜炎	その他の急性上気道感染症
15歳～19歳	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の急性上気道感染症
20歳～24歳	その他の特殊目的用コード	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の急性上気道感染症
25歳～29歳	その他の特殊目的用コード	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症
30歳～34歳	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の急性上気道感染症	皮膚炎及び湿疹
35歳～39歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	その他の急性上気道感染症	皮膚炎及び湿疹
40歳～44歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症
45歳～49歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の神経系の疾患	その他の特殊目的用コード	胃炎及び十二指腸炎
50歳～54歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患
55歳～59歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	糖尿病	アレルギー性鼻炎	その他の消化器系の疾患	高血圧性疾患
60歳～64歳	糖尿病	高血圧性疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	脂質異常症	その他の消化器系の疾患
65歳～69歳	高血圧性疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	脂質異常症
70歳～74歳	高血圧性疾患	糖尿病	脂質異常症	その他の消化器系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

⁶⁹ 平成30年度のレセプトデータによる。

⁷⁰ 令和4年度のレセプトデータによる。

次に、平成30年度及び令和4年度における男性の年齢階層別患者数のワースト5をそれぞれ図表90、図表91に、平成30年度及び令和4年度における女性の年齢階層別患者数のワースト5をそれぞれ図表92、図表93に示します。

図表90、図表91より、男性の「糖尿病」は45歳以上で、男性の「脂質異常症」は55歳以上でワースト5に位置しており、「糖尿病」については上位を占めています。男性の「高血圧症」は平成30年度では50歳以上でワースト5に位置しており、令和4年度では55歳以上でワースト5に位置していますが、これは5年間で年齢階層が上がったものによると考えられます。

図表92、図表93より、女性の「糖尿病」は平成30年度ではランキング外ですが、令和4年度では60歳～64歳でワースト5に位置しています。女性の「脂質異常症」は平成30年度では70歳以上でワースト5に位置しており、令和4年度では60歳以上でワースト5に位置しています。女性の「高血圧症」は70歳以上でワースト5に位置しています。

男性と女性で比較すると、生活習慣病は男性のほうが若い段階から発症している患者数が多いことがわかります。

図表90: 年齢階層別患者数(男性)のワースト5(平成30年度)⁷¹

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性咽頭炎及び急性扁桃炎
05歳～09歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	その他の呼吸器系の疾患	皮膚炎及び湿疹
10歳～14歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	屈折及び調節の障害	その他の呼吸器系の疾患	その他の損傷及びその他の外因の影響
15歳～19歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	その他の呼吸器系の疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	屈折及び調節の障害
20歳～24歳	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の呼吸器系の疾患	アレルギー性鼻炎	皮膚炎及び湿疹
25歳～29歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	皮膚炎及び湿疹	急性咽頭炎及び急性扁桃炎	胃炎及び十二指腸炎
30歳～34歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	その他の呼吸器系の疾患	胃炎及び十二指腸炎	皮膚炎及び湿疹
35歳～39歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	胃炎及び十二指腸炎
40歳～44歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の神経系の疾患	その他の消化器系の疾患
45歳～49歳	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	糖尿病	アレルギー性鼻炎	胃炎及び十二指腸炎
50歳～54歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	糖尿病	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	高血圧性疾患
55歳～59歳	糖尿病	高血圧性疾患	胃炎及び十二指腸炎	その他の消化器系の疾患	脂質異常症
60歳～64歳	高血圧性疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	脂質異常症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
65歳～69歳	高血圧性疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	脂質異常症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
70歳～74歳	高血圧性疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	脂質異常症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

⁷¹ 平成30年度のレセプトデータによる。

図表 91: 年齢階層別患者数（男性）のワースト5（令和4年度）⁷²

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性気管支炎及び急性細気管支炎	その他の特殊目的用コード	その他の急性上気道感染症
05歳～09歳	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性気管支炎及び急性細気管支炎
10歳～14歳	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	結膜炎	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
15歳～19歳	アレルギー性鼻炎	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の急性上気道感染症
20歳～24歳	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
25歳～29歳	その他の特殊目的用コード	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の急性上気道感染症	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
30歳～34歳	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	急性咽喉炎及び急性扁桃炎
35歳～39歳	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の急性上気道感染症	急性咽喉炎及び急性扁桃炎
40歳～44歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	その他の急性上気道感染症	その他の神経系の疾患
45歳～49歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	糖尿病	その他の特殊目的用コード	胃炎及び十二指腸炎	アレルギー性鼻炎
50歳～54歳	糖尿病	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	その他の消化器系の疾患	その他の神経系の疾患
55歳～59歳	高血圧性疾患	糖尿病	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の消化器系の疾患	脂質異常症
60歳～64歳	高血圧性疾患	糖尿病	脂質異常症	その他の消化器系の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
65歳～69歳	高血圧性疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	脂質異常症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
70歳～74歳	高血圧性疾患	糖尿病	その他の消化器系の疾患	脂質異常症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

図表 92: 年齢階層別患者数（女性）のワースト5（平成30年度）⁷³

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	急性気管支炎及び急性細気管支炎
05歳～09歳	その他の急性上気道感染症	皮膚炎及び湿疹	アレルギー性鼻炎	急性咽喉炎及び急性扁桃炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
10歳～14歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	屈折及び調節の障害	結膜炎
15歳～19歳	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の急性上気道感染症	屈折及び調節の障害	その他の呼吸器系の疾患
20歳～24歳	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の呼吸器系の疾患
25歳～29歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
30歳～34歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの
35歳～39歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹
40歳～44歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	皮膚炎及び湿疹	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
45歳～49歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹
50歳～54歳	アレルギー性鼻炎	その他の急性上気道感染症	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
55歳～59歳	アレルギー性鼻炎	胃炎及び十二指腸炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の消化器系の疾患	皮膚炎及び湿疹
60歳～64歳	アレルギー性鼻炎	その他の眼及び付属器の疾患	屈折及び調節の障害	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の消化器系の疾患
65歳～69歳	その他の眼及び付属器の疾患	屈折及び調節の障害	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の消化器系の疾患	胃炎及び十二指腸炎
70歳～74歳	その他の眼及び付属器の疾患	屈折及び調節の障害	高血圧性疾患	脂質異常症	その他の消化器系の疾患

⁷² 令和4年度のレセプトデータによる。

⁷³ 令和4年度のレセプトデータによる。

図表 93: 年齢階層別患者数 (女性) のワースト5 (令和4年度)⁷⁴

年齢階層	1位	2位	3位	4位	5位
00歳～04歳	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症	急性気管支炎及び急性細気管支炎	急性咽頭炎及び急性扁桃炎
05歳～09歳	その他の特殊目的用コード	その他の急性上気道感染症	アレルギー性鼻炎	急性気管支炎及び急性細気管支炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
10歳～14歳	屈折及び調節の障害	その他の特殊目的用コード	アレルギー性鼻炎	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の眼及び付属器の疾患
15歳～19歳	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の特殊目的用コード	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー性鼻炎	屈折及び調節の障害
20歳～24歳	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー性鼻炎	皮膚炎及び湿疹
25歳～29歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	皮膚炎及び湿疹	その他の急性上気道感染症
30歳～34歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	その他の急性上気道感染症	皮膚炎及び湿疹
35歳～39歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	その他の特殊目的用コード	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
40歳～44歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	良性新生物<腫瘍>及びその他の新生物<腫瘍>
45歳～49歳	アレルギー性鼻炎	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	皮膚炎及び湿疹	その他の神経系の疾患	その他の皮膚及び皮下組織の疾患
50歳～54歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー性鼻炎	皮膚炎及び湿疹	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	その他の消化器系の疾患
55歳～59歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー性鼻炎	その他の眼及び付属器の疾患	屈折及び調節の障害	その他の消化器系の疾患
60歳～64歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	アレルギー性鼻炎	その他の消化器系の疾患	脂質異常症	糖尿病
65歳～69歳	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	脂質異常症	その他の眼及び付属器の疾患	屈折及び調節の障害	その他の消化器系の疾患
70歳～74歳	その他の眼及び付属器の疾患	脂質異常症	高血圧性疾患	屈折及び調節の障害	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの

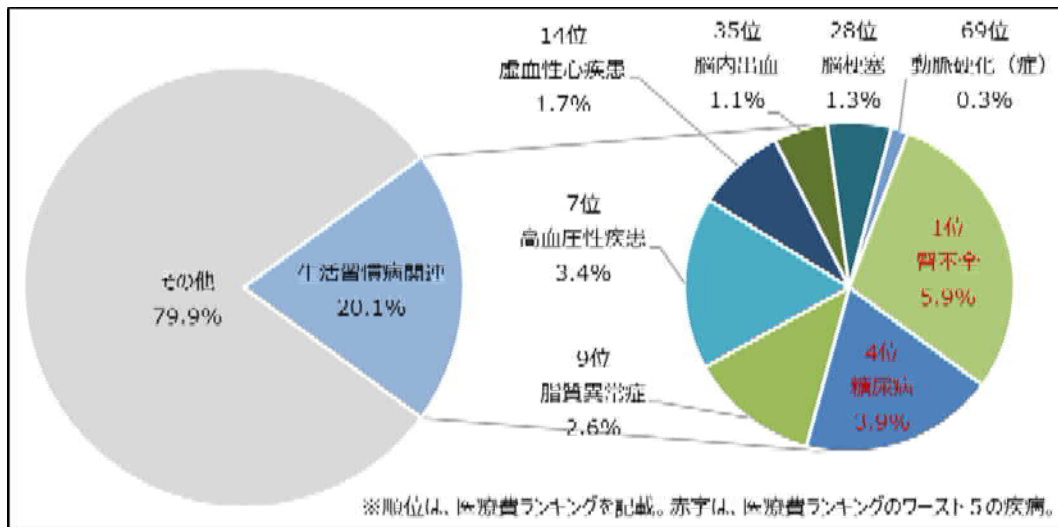
医療費における生活習慣病関連疾病(「糖尿病」、「脂質異常症」、「高血圧症」、「腎不全」、「虚血性心疾患」、「脳内出血」、「脳梗塞」、「動脈硬化」)の占める割合、及び生活習慣病関連疾病の患者数と一人あたり医療費を平成30年度と令和4年度で整理しました。

平成30年度及び令和4年度の、医療費における生活習慣病の占める割合及び中分類疾病での内訳(医療費ランキングも記載)をそれぞれ図表94、図表95に示します。

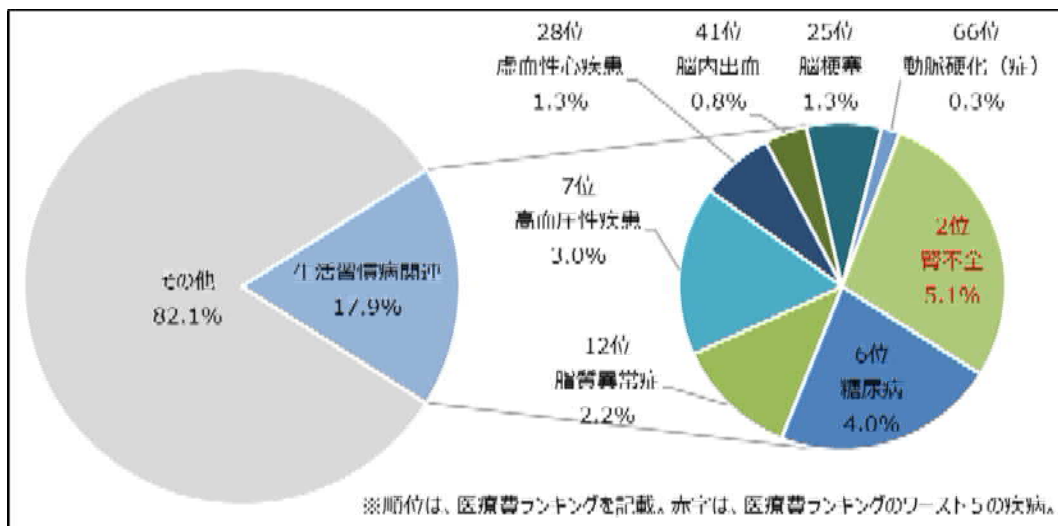
図表94、図表95より、生活習慣病の占める割合は5年間で20.1%から17.9%まで減少していることがわかります。疾病ごとの内訳を見ると、5年間で大きな変化はありませんが、「腎不全」・「脂質異常症」・「高血圧性疾患」・「虚血性心疾患」・「脳内出血」の割合がやや減少しています。

⁷⁴ 令和4年度のレセプトデータによる。

図表 94: 医療費における生活習慣病の占める割合 (平成30年度)⁷⁵



図表 95: 医療費における生活習慣病の占める割合 (令和4年度)⁷⁶



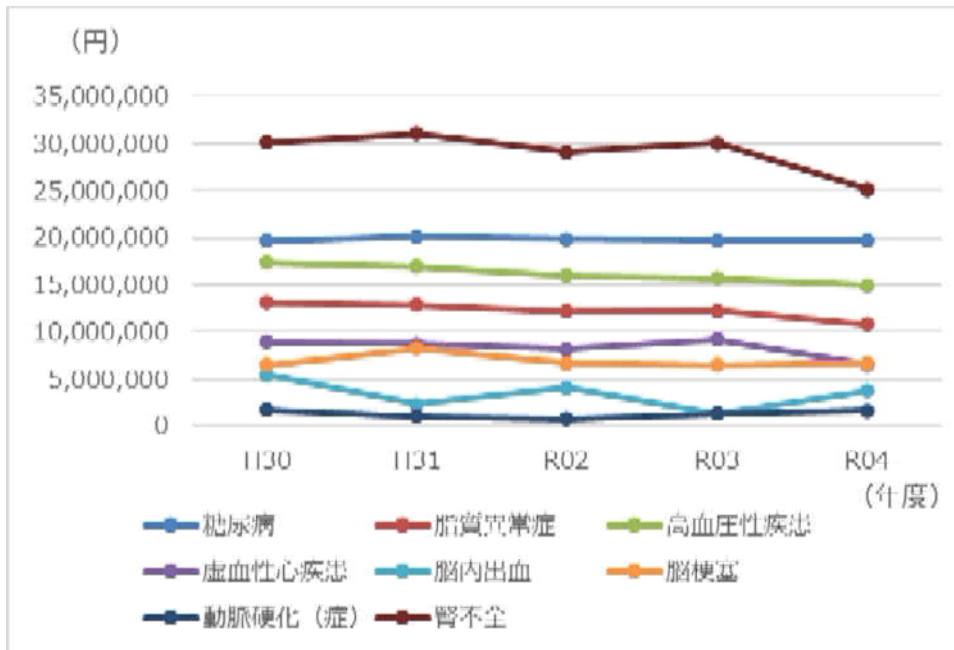
次に、過去5年間の生活習慣病の医療費、患者数、一人あたり医療費をそれぞれ図表96、図表97(拡大図:図表98)、図表99(拡大図:図表100)に示します。図表96より、医療費は全体的に横ばいですが、腎不全が減少しています。図表97、図表98より、患者数も全体的に横ばいですが、腎不全が人口減少傾向にも関わらずゆるやかに増加傾向にあります。図表99、図表100より、一人あたり医療費は腎不全が減少してい

⁷⁵ 平成30年度のレセプトデータによる。

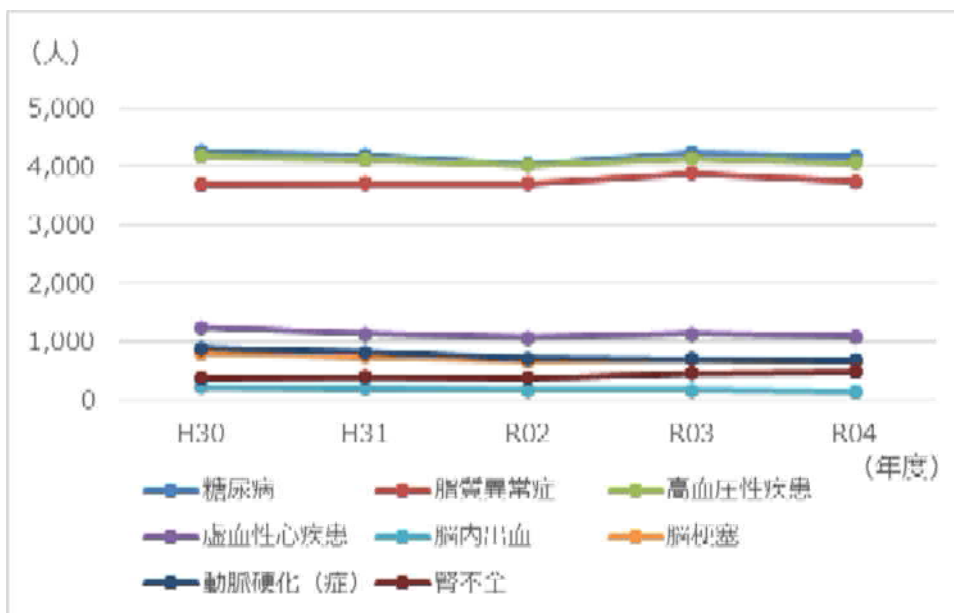
⁷⁶ 令和4年度のレセプトデータによる。

ます。したがって、患者数は増えながらも一人あたり医療費が減少しているため、医療費が減少していると考えられます。

図表 96: 過去5年間の生活習慣病の医療費⁷⁷



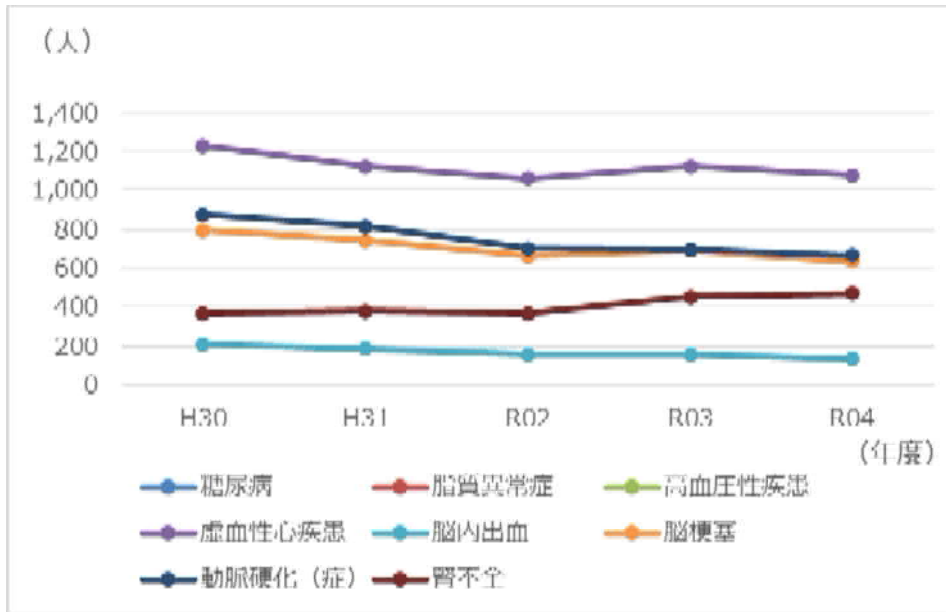
図表 97: 過去5年間の生活習慣病の患者数⁷⁸



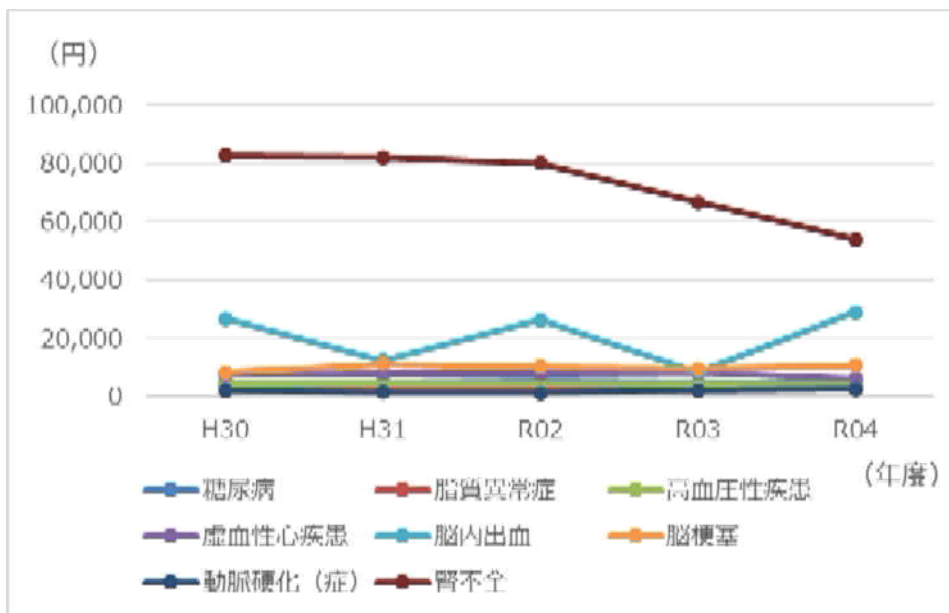
⁷⁷ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

⁷⁸ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

図表 98: 過去5年間の生活習慣病の患者数 (拡大図) ⁷⁹



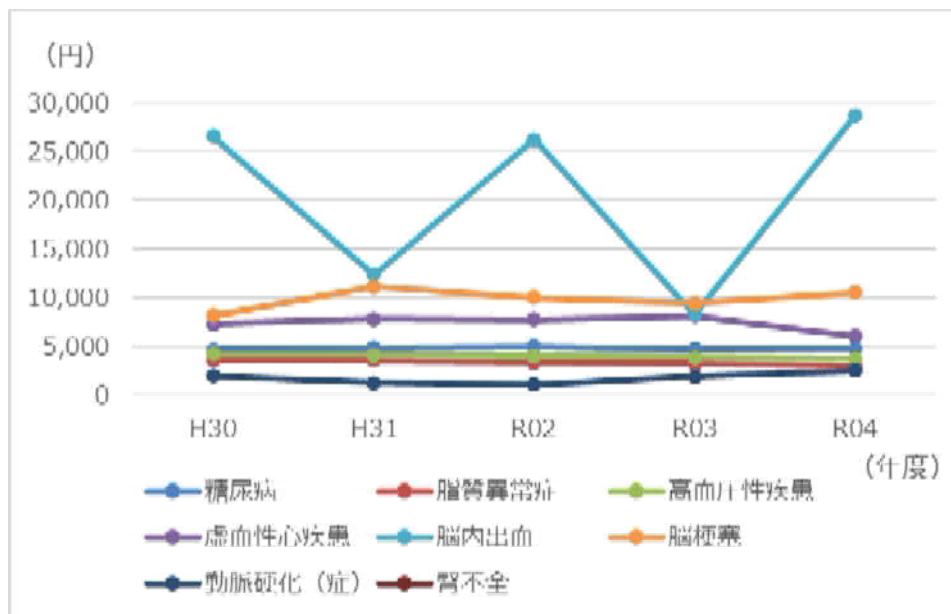
図表 99: 過去5年間の生活習慣病の一人あたり医療費⁸⁰



⁷⁹ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

⁸⁰ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

図表 100: 過去5年間の生活習慣病の一人あたり医療費 (拡大図) ⁸¹



3.2.10.2 過去5年間のワースト10の種別の変遷

医療費、患者数、一人あたり医療費の上位10疾病について、過去5年間の変遷を分析しました。

医療費の上位10疾病の過去5年間の変遷を図表101に、男性及び女性における医療費の上位10疾病の過去5年間の変遷をそれぞれ図表102、図表103に示します。

図表101より、「腎不全」、「糖尿病」、「高血圧症」がワースト10に位置しており、大きな変動はありません。

図表102より、男性も同様に「腎不全」、「糖尿病」、「高血圧症」がワースト10に位置しており、大きな変動はありません。

図表103より、女性は「糖尿病」、「高血圧症」がワースト10に位置しており、大きな変動はありません。

図表 101: 医療費 (全体) 上位10疾病の過去5年間の変遷⁸²

令和4年度医療費上位10位 (中分類疾病ランキング)		令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
1位	0210 その他の悪性新生物<腫瘍>	1位	2位	2位	2位
2位	1402 腎不全	2位	1位	1位	1位
3位	1113 その他の消化器系の疾患	3位	3位	3位	3位
4位	0903 その他の心疾患	5位	4位	4位	5位
5位	0606 その他の神経系の疾患	4位	6位	6位	6位
6位	0402 糖尿病	6位	5位	5位	4位
7位	0901 高血圧性疾患	7位	7位	7位	7位
8位	0503 統合失調症, 統合失調症型障害及び妄想性障害	9位	8位	8位	8位
9位	0205 気管, 気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	8位	9位	13位	18位
10位	0704 その他の眼及び付属器の疾患	13位	11位	10位	10位

⁸¹ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

⁸² 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

図表 102: 医療費（男性）上位10疾病の過去5年間の変遷⁸³

令和4年度医療費上位10位（中分類疾病ランキング）			令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
1位	1402	腎不全	1位	1位	1位	1位
2位	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	2位	2位	2位	2位
3位	0903	その他の心疾患	4位	3位	3位	4位
4位	1113	その他の消化器系の疾患	3位	4位	4位	3位
5位	0402	糖尿病	5位	5位	5位	5位
6位	0606	その他の神経系の疾患	6位	6位	6位	6位
7位	0901	高血圧性疾患	7位	7位	7位	7位
8位	0205	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	11位	8位	14位	16位
9位	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	8位	11位	8位	9位
10位	0301	貧血	13位	9位	11位	11位

図表 103: 医療費（女性）上位10疾病の過去5年間の変遷⁸⁴

令和4年度医療費上位10位（中分類疾病ランキング）			令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
1位	0210	その他の悪性新生物<腫瘍>	1位	1位	1位	3位
2位	1113	その他の消化器系の疾患	4位	2位	2位	2位
3位	0606	その他の神経系の疾患	2位	4位	4位	4位
4位	0206	乳房の悪性新生物<腫瘍>	3位	3位	3位	1位
5位	0903	その他の心疾患	6位	9位	14位	13位
6位	0402	糖尿病	9位	5位	7位	7位
7位	0901	高血圧性疾患	8位	6位	5位	6位
8位	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	11位	7位	9位	5位
9位	1309	骨の密度及び構造の障害	12位	12位	10位	8位
10位	0704	その他の眼及び付属器の疾患	15位	11位	11位	12位

次に、患者数の上位10疾病の過去5年間の変遷を図表104に、男性及び女性における患者数の上位10疾病の過去5年間の変遷をそれぞれ図表105、図表106に示します。

図表104より、「糖尿病」、「高血圧症」がワースト10に位置しており、大きな変動はありませんが、「糖尿病」は平成31年度からわずかにランキングが上がっています。

図表105より、男性は「高血圧症」、「糖尿病」、「脂質異常症」がワースト10に位置しており、大きな変動はありません。

図表106より、女性は生活習慣病がランキング外となっています。

図表 104: 患者数（全体）上位10疾病の過去5年間の変遷⁸⁵

令和4年度患者数上位10位（中分類疾病ランキング）			令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
1位	1800	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1位	2位	1位	1位
2位	1006	アレルギー性鼻炎	10位	9位	2位	2位
3位	1113	その他の消化器系の疾患	2位	1位	4位	4位
4位	0402	糖尿病	3位	3位	8位	9位
5位	0703	屈折及び調節の障害	4位	5位	5位	5位
6位	2220	その他の特殊目的用コード	13位	32位	123位	123位
7位	0704	その他の眼及び付属器の疾患	7位	7位	6位	6位
8位	0901	高血圧性疾患	5位	4位	9位	10位
9位	1203	その他の皮膚及び皮下組織の疾患	6位	8位	10位	11位
10位	1202	皮膚炎及び湿疹	8位	6位	7位	8位

⁸³ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

⁸⁴ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

⁸⁵ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

図表 105: 患者数（男性）上位10疾病の過去5年間の変遷⁸⁶

令和4年度患者数上位10位（中分類疾病ランキング）		令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
1位	1800	3位	4位	4位	4位
2位	0901	1位	1位	1位	1位
3位	0402	2位	2位	2位	2位
4位	2220	10位	26位	117位	118位
5位	1113	4位	3位	3位	3位
6位	1006	9位	7位	5位	5位
7位	0403	5位	5位	8位	10位
8位	1203	8位	8位	11位	11位
9位	1202	7位	6位	9位	8位
10位	0703	6位	10位	7位	9位

図表 106: 患者数（女性）上位10疾病の過去5年間の変遷⁸⁷

令和4年度患者数上位10位（中分類疾病ランキング）		令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
1位	1800	1位	3位	1位	2位
2位	0703	2位	1位	3位	3位
3位	1006	7位	7位	2位	1位
4位	0704	3位	2位	5位	5位
5位	1113	4位	6位	8位	6位
6位	1203	5位	4位	7位	9位
7位	1202	6位	5位	6位	7位
8位	0701	12位	9位	10位	10位
9位	2220	16位	34位	121位	122位
10位	1105	8位	8位	9位	8位

次に、一人あたり医療費の上位10疾病の過去5年間の変遷を図表107に、男性および女性における一人あたり医療費の上位10疾病の過去5年間の変遷をそれぞれ図表108、図表109に示します。

図表107、図表108、図表109より、「腎不全」がワースト10に位置しており、大きな変動はありません。

図表 107: 一人あたり医療費（全体）上位10疾病の過去5年間の変遷⁸⁸

令和4年度一人あたり医療費上位10位（中分類疾病ランキング）		令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
1位	0209	3位	1位	2位	1位
2位	1402	1位	3位	1位	2位
3位	1601	8位	2位	26位	7位
4位	1901	18位	21位	29位	27位
5位	0905	24位	8位	15位	6位
6位	0203	6位	7位	4位	9位
7位	0503	12位	10位	9位	10位
8位	0604	16位	14位	5位	4位
9位	0210	14位	15位	13位	17位
10位	0502	17位	18位	14位	16位

⁸⁶ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

⁸⁷ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。

⁸⁸ 平成30年度から令和4年度までのレセプトデータによる。